

令和8年度入学者適用

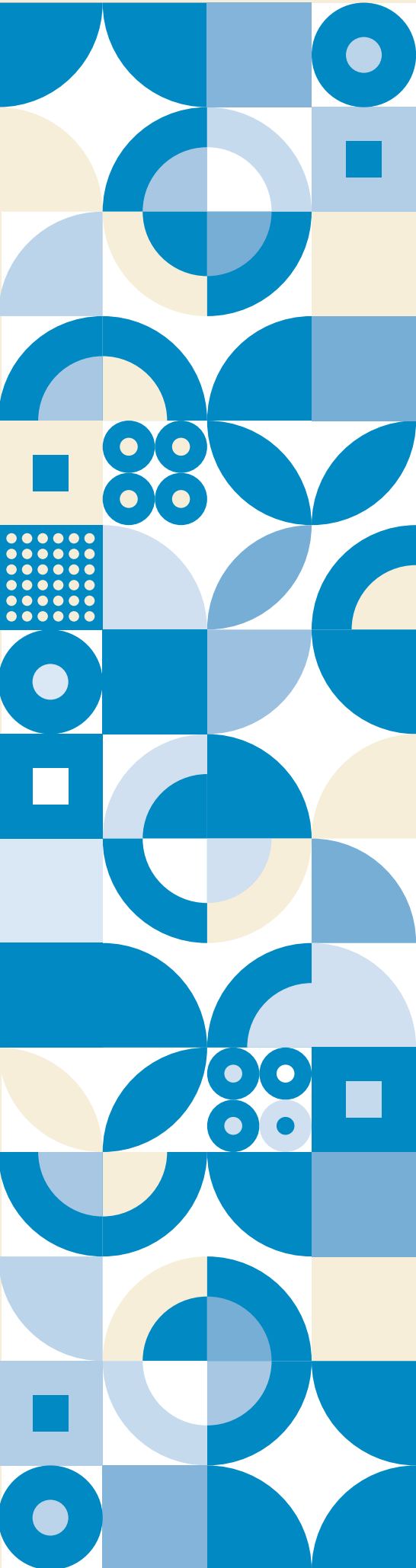


履修の手引

工学部

Faculty of Engineering

2026



目 次

1	主要スケジュール	1
2	愛大学生コンピテンシー～愛媛大学学生として期待される能力～	1
3	学部の教育の理念と教育方針（特徴と履修の仕組み）	2
	3-1 ディプロマ・ポリシー	2
	3-2 カリキュラム・ポリシー	2
4	大学で学ぶ基本知識	4
5	単位制度	4
6	履修登録単位数の上限（CAP制）	5
7	履修コースの決定	5
	7-1 工学科・教育コース及び特別プログラム	5
	7-2 学生生活担当教員と履修指導	5
	7-3 教育コースへの所属	6
	7-4 転教育コース	6
	7-5 受講クラス	6
8	教育目標、教育課程表、履修方法、科目ナンバリング	7
	8-1 共通教育科目	7
	8-2 専門教育科目	16
	8-3 科目ナンバリング	43
9	履修登録手続き等	44
	9-1 履修登録の時期	44
	9-2 履修登録の手順	44
	9-3 履修計画	45
	9-4 履修モデル・カリキュラムマップ	46
	9-5 履修登録科目の確認について	46
	9-6 履修登録科目の修正について	46
	9-7 履修登録科目の取消について	46
10	他教育コース・他学部授業科目履修	46
	10-1 他教育コース授業科目履修	46
	10-2 他学部授業科目履修	47
11	単位互換科目・他大学科目	47
12	受講上の注意事項（授業の実施場所、休講・補講、授業欠席）	47
	12-1 授業の実施場所等	48
	12-2 休講・補講	48
	12-3 授業の欠席	48

13	試験・成績	49
13-1	試験等における受験上の注意	49
13-2	不正行為	49
13-3	レポートの提出	49
13-4	追試験	49
13-5	成績の評価	50
13-6	成績の確認と成績確認申立	50
13-7	保証人への成績情報の開示について	50
13-8	GPAについて	50
14	卒業見込・卒業研究履修要件	51
15	卒業認定・早期卒業	51
16	転学部	52
17	学びのサポート（教科書、自主学習スペース、学習支援、履修相談窓口）	52
17-1	教科書	52
17-2	大学内での自主的な学習	52
17-3	学習支援	53
17-4	履修相談窓口（学務に関する内容）	53
18	教育職員免許状	54
18-1	「教育職員免許状」の取得方法	55
18-2	その他	62
19	その他の資格について	63
20	学内諸規程	71

1	主要スケジュール
2	愛大学生コンピテンシー
3	学部と教育方針
4	教育の理念
5	基本知識
6	大学で学ぶ
7	単位制度
8	履修登録単位数の上限
9	履修コースの決定
10	教育目標
11	履修登録
12	入・他学部
13	単位互換
14	受講上の注意事項
15	試験・成績
16	卒業要件
17	卒業認定・早期卒業
18	転学部
19	学部のサポート
20	教育職員免許状
21	その他の資格について
22	学内諸規程

1 主要スケジュール

各日程は大学のホームページで確認してください。

📅 学年暦・授業日程



📅 履修日程



📅 授業時間



2 愛大学生コンピテンシー～愛媛大学学生として期待される能力～



\ 愛媛大学学生として期待される能力 /
愛大学生コンピテンシー

愛大学生コンピテンシー(2012年7月策定)は、愛媛大学憲章にもとづき、
 すべての学部の学生が卒業時に身につけていることが期待される能力を示すもので、
 愛媛大学全体の教育目標と位置づけることができます。
 学生のみなさんは、**正課教育、準正課教育、正課外活動**を通じてこれらの能力を身につけることができます。
 専門分野の知識に加えて、愛大学生コンピテンシーで示された幅広い能力を習得することで、
 みなさんが今後の未来を切り拓いていくことを願っています。

愛媛大学学生として期待される能力
愛大学生コンピテンシー

3 学部の教育の理念と教育方針（特徴と履修の仕組み）

3-1 ディプロマ・ポリシー （教育理念と教育目的、育成する人材像、 学習の到達目標、卒業認定・学位授与）

〈教育理念と教育目的〉

愛媛大学学則及び愛媛大学憲章の趣旨を踏まえ、工学部では幅広い教養及び工学に関連する基礎知識に基づいた学問的知識を修得させることにより、豊かな人間性と自立した創造力に富む専門的職業人及び技術者となる人材を養成することを目的としています。また、深く工学分野の学芸を教授研究することにより、社会の文化の創造と発展に貢献することを目的としています。

〈育成する人材像〉

社会や自然との係わりの中に自らを位置づけ、グローバルな視野からの多面的な判断によって工学・科学技術を主体的、自律的に行使することができる人材を育成します。また、科学とこれを基礎とする工学分野の基礎的知識を総合的に活用して、「ものづくり」や「システムづくり」に創造的かつ実践的能力を発揮し、かつ変化する産業構造に柔軟に対応し、社会に貢献することができる人材を育成します。

〈学習の到達目標〉

（知識・理解）

1. 幅広い教養と工学の基本的な知識を身につけている。
2. 工学の一専門分野について基礎的知識をもち、ものづくりやシステムづくりに活用できる。

（思考・判断）

3. 科学や技術が社会におよぼす影響を理解し、国内外の視点から自立的かつ論理的な判断を行うことができる。

（興味・関心・意欲）

4. 課題を解決するために必要となる工学的知識を自ら修得するために学習を継続する能力をもつ。

（態度）

5. 自己の専門分野だけでなく教養および多様な工学的知識を総合的に活用しながら、現代社会が直面するさまざまな課題に柔軟に対応できる。
6. 課題を他者と協働して解決できる。

（技能・表現）

7. 自らの思考・判断のプロセスを説明し、伝達するためのプレゼンテーション能力、およびコミュニケーション能力をもつ。

〈卒業認定・学位授与〉

工学部の定める教育課程を修め、厳格な成績評価に基づき所定の単位を修得し、卒業要件を満たした学生に対して卒業を認定し学位（学士）を授与します。

3-2 カリキュラム・ポリシー （教育課程の編成と教育内容、教育方法と成績評価、 カリキュラム評価（教育評価））

〈教育課程の編成と教育内容〉

工学部工学科では、まず基礎をしっかりと学習したのち、専門知識を身につけるための深い学びと実践

力の養成へと繋がるよう、カリキュラムが組まれています。カリキュラムは、共通教育科目と専門教育科目から構成され、工学部の専門教育科目は工学共通基礎科目、専門入門科目、専門基礎科目、専門応用科目から成り、年次進行とともに基礎から発展・応用へと段階を踏んで学べるように授業科目が配置されています。

共通教育科目では、1年次の基盤科目で「新入生セミナー」、「英語」や「情報リテラシー」など、大学での学びを進めるための基礎的な知識・技能を学習します。また、専門分野の基礎を学んだあと、1年次の後学期から3年次前学期にかけて教養科目を履修することで、社会との関連を意識して、自己の学びを深めます。

工学共通基礎科目や専門入門科目では、工学科の学生全員が同じ内容の授業を受講します。1年次の工学共通基礎科目では、「微積分」や「線形代数」などの数学科目の他、「物理基礎」や「化学基礎」などの科目で、工学系技術者・研究者を目指す学生が身につけなければならない知識・技能の基礎を学習します。また、工学の基礎である数学・物理・化学に加え、特に最近発展が著しく、工学分野としても必須になってきているプログラミングやAI/データサイエンス、環境/生命科学に関する基礎科目についても全員が1年次に学びます。教育コース選択以前の1年次前学期には、工学科各教育コースの特徴や主な研究テーマ、さらに自然・生命・環境・エネルギー・社会・情報と科学技術の関わりに加え、工学の複数の分野が融合していく未来を見据えた工学全般を俯瞰する内容について「工学リテラシー」で学習する他、後に選択する教育コースに関係なく各専門分野の入門的な科目である専門入門科目で幅広い分野の工学の基礎を全員が学びます。また、卒業後のキャリアパスを意識しつつ自己の学びを深め、実践的能力が培えるよう、「学部共通PBL」、「工学倫理・知財・キャリアリテラシー」を3年次に全員が履修します。

専門基礎科目と専門応用科目は教育コース配属後に履修します。1年次後学期からは、機械工学コース、知能システム学コース、電気電子工学コース、コンピュータ科学コース、応用情報工学コース、材料デザイン工学コース、化学・生命科学コース、社会基盤工学コース、建築・社会デザインコース、海事産業特別コース、デジタル情報人材育成特別プログラムの計11教育コース・プログラムに分かれ、教育コース・プログラムそれぞれに特徴ある授業科目を受講することにより、より専門性を深めた知識・技能の修得を目指します。各教育コース・プログラムにおいて、4年次に学生は研究室に配属され、卒業研究として各教育コース・プログラムに関連した先端研究を行います。卒業研究に取り組むことにより、学んだ知識や技術を実践・応用する力、社会で未解決の問題を解決する能力を養います。

〈教育方法と成績評価〉

- ・講義、実験・実習、体験学習、ディスカッション・グループワーク、プレゼンテーションなど、ディプロマ・ポリシーに示す教育目的と学習の到達目標に応じて最適な形式の授業を実施します。
- ・科目間の関係と履修の流れをカリキュラムマップとしてわかりやすく示し、専門志向・キャリアパスに応じた履修計画をサポートします。
- ・授業時間外学習に充てる時間を十分に確保できるように履修登録制限を設けています。
- ・すべての授業において、客観的な評価基準に基づいて、筆記試験、口頭試問、レポートなどにより厳格な成績判定を実施します。
- ・卒業研究を履修するには、3年次後学期終了までに修得しなければならない単位数と授業科目が定められています。

〈カリキュラムの評価（教育評価）〉

各学期の終了時に授業アンケートを行い、個々の授業科目の改善に役立てます。また、卒業予定学生アンケートを実施し、工学科・教育コースの教育が学生の成長にどう役立ったかを調べ、教育の改善につなげます。さらに、卒業生や卒業生が就職した企業関係者の方々の意見を聴取して、卒業認定・学位授与の方針で示された能力が確実に身につけているかを検証します。

1	主要スケジュール
2	愛大生と学生生活
3	学部の理念と教育方針
4	大学で学ぶ基本知識
5	単位制度
6	履修登録単位数の上限
7	履修コースの決定
8	教育課程と履修方法
9	履修登録手続き等
10	他教育コース・他学部履修
11	換科目・他単位の履修
12	受講上の注意事項
13	試験・成績
14	卒業見込・卒業要件
15	卒業認定・早期卒業
16	転学部
17	学びのサポート
18	教育職員免許状
19	その他の資格について
20	学内諸規程

4 大学で学ぶ基本知識

工学部の学生が履修する授業科目には、愛媛大学の全学生向けに開講される「共通教育科目」と工学部の学生向けに開講される「専門教育科目」があります。工学部の学生に対して入学から卒業までに開講される授業科目は、この「履修の手引」の「教育課程表」に掲載されています。

履修の要件や自分のキャリアビジョンに合わせて、該当する教育課程表から履修する授業科目を選択し、単位を修得してください。授業科目の履修には、学期初めに「履修登録」が必要です。この「履修の手引」を熟読して、卒業要件のほか、履修の条件・制限を十分に理解し、周到な履修計画を立ててください。また、学習内容を理解するために、シラバスを活用してください。

用語解説

- (1) 学期：本学は、1年間（学年）を前学期と後学期の2つの学期に分けており、学期のことをセメスターと呼ぶこともあります。さらに、学期（セメスター）を半分に区切り、前学期を第1、第2クォーター、後学期を第3、第4クォーターに分けています。授業科目はそれぞれの学期にあわせて開講されます。また、一定期間集中して開講するなど、授業日程に縛られず開講される授業科目は、「集中講義」と呼びます。なお、この手引ではクォーターを「Q」と表記する場合があります。
- (2) 履修：大学では、教育課程に設けられた授業科目の中から、自らが受けたい授業を登録し、所定の時間数の授業を受け、試験等に合格すれば単位を修得できます。この一連の流れを履修といいます。
- (3) 履修登録：その年度（学期）に履修しようとする授業科目の授業を受けるためには登録手続きが必要です。
- (4) 単位：授業科目の学修を数量的に表すものです。授業科目には学修時間に応じた単位数が定められています。
- (5) シラバス：授業計画を表し、授業担当教員、授業科目の概要、各回の授業の計画等が記載されています。授業科目を履修する際には、シラバスを参照し、授業内容を確認してください。
- (6) 修業年限と在学期間：修業年限は、学位を取得するために必要な正規の教育課程の期間で、4年間の修業が必要です。一方、在学期間とは、学部在学可能な期間で、修業年限の2倍、つまり8年（休学期間を除く）を超えて在学することはできません。
- (7) 卒業：所定の授業科目を履修し所定の単位を修得すると卒業として認定されます。

5 単位制度

大学の単位を修得するためには、授業を受講する以外に、教室外での自学自習（予習、復習、その他の課題、教育体験やボランティア活動など）を併せて行い、受け身ではない主体的な学習を行うことが求められています。

制度上のルールでは、1単位は、教室での授業と教室外の自学自習を合わせ、45時間の学習を必要とすることが標準とされています。このため、1単位の授業科目で、1学期に週1回合計15回の授業がある場合には、教室での授業を含め、週3時間の学習が必要になります。

例えば、1人の学生が1週間で学習できる時間を72時間（日曜日以外、毎日12時間学習すると仮定）としても、1学期間に学習できる単位数は24単位、2単位の授業科目であれば12科目分が履修の限度になります。これより多い授業科目を履修しようとするれば、授業の予習・復習などが十分にできなくなり、学習内容を身に付けることができないおそれがあります。このことを防止し、履修登録した授業科目をそれぞれ十分に学習することができるよう、1学期中に履修登録できる単位数には制限があります。

予習や復習のほかにも、図書館で参考文献を閲覧したり、各種の体験活動に参加して知識・技能を高めたり、教員や先輩と話をするなど、大学生活では、自分なりのテーマを発見して解決する、学ぶことの楽しさを感じてください。

6 履修登録単位数の上限（CAP制）

履修登録できる単位数は、各学期（前学期、後学期）それぞれ24単位を上限とします。ただし、以下に該当する授業科目はCAP制の対象外となっています。

- ・集中講義や資格取得のための授業科目
- ・演習、実験、実習又は実技科目としている授業科目
- ・受講し、かつ最終試験を受けて不可又は不合格となった授業科目について、次の学期以降に当該授業科目を履修する場合の授業科目
- ・「5大学工学部等間単位互換に関する覚書」及び「中国・四国国立大学工学系学部相互間における単位互換に関する協定」に基づく科目
- ・放送大学の科目

また、以下の成績基準を満たす学生については、学期ごとに所定の手続きを経ることで、履修登録単位数の上限を超えて登録を行うことができます。履修登録単位数の引き上げを希望する場合は、工学部事務課学務チームの窓口で手続きをしてください。

成績基準：

当該学期の直前の2学期間（休学のために単位認定ができない学期を除く。）に合計36単位以上修得していること及び同期間の全学GPAが3.0以上であること

このほか、特別な配慮が必要と認めた場合は、制限の対象外となります。詳細は「愛媛大学工学部における履修登録単位の上限に関する内規」を参照してください。

7 履修コースの決定

7-1 工学科・教育コース及び特別プログラム

工学科・工学科は、「機械工学コース」、「知能システム学コース」、「電気電子工学コース」、「コンピュータ科学コース」、「応用情報工学コース」、「材料デザイン工学コース」、「化学・生命科学コース」、「社会基盤工学コース」、「建築・社会デザインコース」及び「海事産業特別コース」の10教育コースと「デジタル情報人材育成特別プログラム」からなります。各教育コースには、入学時に教育コースが決まっている学校推薦型選抜・総合型選抜・一般選抜（文理型）等合格者の人数を含めた受入れ可能人数枠が設定されます。（受入れ可能人数枠は1年次前学期の配属希望調査時に提示されます。）入学時に教育コースが決まっていない一般選抜合格者は、1年次前学期終了後に本人の希望と1年次前学期の成績によって教育コースへの配属が決定します。（ただし一定の条件を満たさない場合には、教育コースへの配属が保留されます）詳細は7-3教育コースへの所属を参照してください。

7-2 学生生活担当教員と履修指導

工学科では、学生生活担当教員制度を設けています。入学時に工学部の教員の中から学生生活担当教員が決まりますので、学生生活の中で、学習や課外活動、経済的な悩み、進路など困ったことがあれば、いつでも相談してください。

教育コース配属後の1年次後学期から卒業までは、所属する教育コースの教員が学生生活担当教員となり、教育コース・プログラムごとに履修指導とガイダンスが行われます。

7-3 教育コースへの所属

一般選抜（理型入試）合格者

1年次後学期から教育コースに所属します。教育コースに配属されるには、1年次前学期配当の共通教育科目（基盤科目6科目8単位）と専門教育科目（工学共通基礎科目7科目10単位と専門入門科目6科目6単位）の計19科目のうち16科目以上の単位取得（合格）が必要です。1年次の前学期中に教育コースの希望調査を行い、本人の希望を優先しつつ、前学期の学業成績を考慮して教育コースに配属されます。（希望者が集中し教育コースの受入可能人数枠を超えるコースが出た場合、1年次前学期学業成績上位者が優先されます。そのため、必ずしも希望のコースに所属できない場合があります。）

一般選抜（文理型）、学校推薦型選抜、総合型選抜

1年次から教育コースに所属します。一定の条件を満たせば2年次から別の教育コースに移る（転教育コース）こともできます。

私費・国費（政府派遣）外国人留学生

1年次から教育コースに所属します。一定の条件を満たせば2年次から別の教育コースに移る（転教育コース）こともできます。

デジタル情報人材育成特別プログラムの学生

本特別プログラムの学生は、1年次から特別プログラムに所属します。

7-4 転教育コース

別の教育コースに移ることを転教育コースといいます。2年次以降、一定の条件を満たせば転教育コースすることができます。転教育コースの条件、時期、方法等については修学支援システム等で通知します。また、教育コースごとに卒業研究履修要件が異なりますので、転教育コースを希望する場合は、教育コース長又は学生生活担当教員とよく相談してください。

なお、デジタル情報人材育成特別プログラムの学生は他の教育コースへ移ることは原則として認められていません。

7-5 受講クラス

みなさんが同一の開講時間に同じ教室で受講する集まりを、受講クラスと呼びます。共通教育科目や工学共通基礎科目では、個人番号順に区切られた受講クラスがあります。つまり、同じ授業科目を受講する際に個人番号によって異なる受講クラスで受講することになります。また、受講クラスの分け方は授業科目ごとに異なります。

年次始めの履修ガイダンス及び学期始めに配布する時間割表でよく確認して、履修登録を行い、授業を受けてください。

8 教育目標、教育課程表、履修方法、科目ナンバリング

共通教育科目と専門教育科目の教育目標を紹介します。また、卒業に必要な授業科目や単位数を整理した「教育課程表」は、自身の卒業要件を理解するうえで重要な資料です。各科目の履修方法の説明と合わせて必ず確認してください。

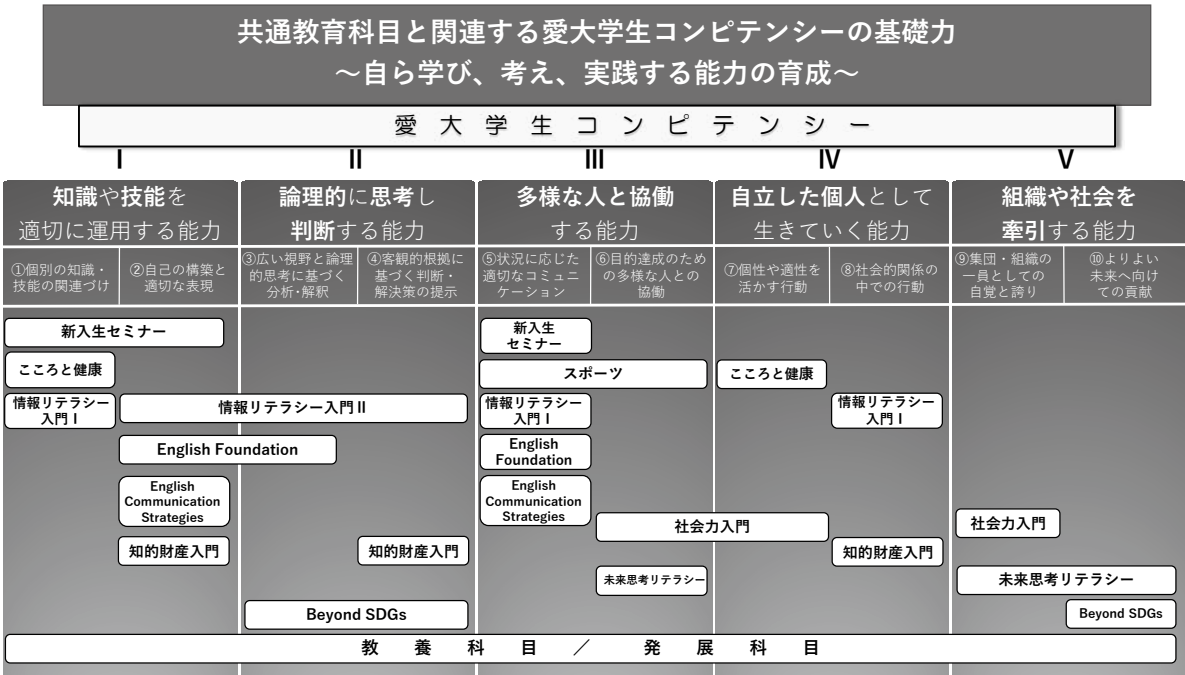
8-1 共通教育科目



共通教育の目的と実施方針

愛媛大学の共通教育は、愛媛大学憲章に謳われている理念にもとづき、学生が自ら学び、考え、実践する能力を身につけられるようにすることを目的としています。特に、総合大学としての利点を活かし、学生が様々な学問領域を学修することを通して、愛大学生コンピテンシーで示されている5つの能力を獲得できるように支援することをその方針としています。

愛大学生コンピテンシーで示されている能力を獲得するため、共通教育科目は次のように編成されています。



(1) 教育目標

①基盤科目

新入生が、健康で充実した学生生活を送るための知識や能力（ライフ・スキル）、大学における効果的な学修方法（スタディ・スキル）を獲得し、学修全般の基盤となる知識や能力を身に付けるための授業科目を開講します。

新入生セミナー

新入生が大学での学びに必要な知識や能力を身に付け、主体的に学習を進められるよう支援することを目的とした授業科目です。

ところと健康

大学に入学した皆さんが、心身の健康のあり方について学ぶことにより、健全な学生生活を継続的に送ることを目的とした授業科目です。

スポーツ

生涯にわたって心身ともに健やかな生活を送るために必要な知識及び技能の習得を目的とした授業科目です。

英語

共通教育における英語は、高校までに学んできた英語の知識の定着と維持の他、専門教育において必要不可欠な英語力及び世界で活躍するために必要なグローバルコミュニケーション力の養成に重点を置いています。

社会力入門

人生の新しい段階（社会）へと移行する若者の成長を支えるキャリア教育科目です。社会を形成し、維持していくために必要不可欠な資質・能力について学び、生涯を通じた持続的な就業力の育成や豊かな人間形成と人生設計について考えます。

情報リテラシー入門

ネットワークの安全性や仕組みを理解した上で、コンピュータを用いてデータをどのように取得し利用するのかを数理・データサイエンス及びAIの重要性と共に理解し、データ駆動型の社会に対応する能力を養成します。

知的財産入門

知的財産の全体概要を理解するとともに、レポートや論文作成時に必要とする知的財産の知識など、身近な事例をテーマにして、概念の理解や初歩的な知的財産対応力を養成します。

②未来思考支援科目

変化の時代を生き抜き、世界的課題を理解して地域や国内外に生じる未来に向けた課題解決に貢献できる人材となるための基礎的知識と思考力を身に付けるための授業科目を開講します。

Beyond SDGs

いままぜSDGsの達成が求められているのかについてその全体像を探るとともに、SDGsの17の目標と169のターゲットについての理解を深める授業科目です。

その上で、Beyond SDGs時代における地球のあるべき姿を追い求めるべく、現代社会が抱える課題がSDGsとどう関連するのか、そしてその克服の仕方について学びます。

未来思考リテラシー

これからの社会の担い手として、未来を予測し、変化する世界の中で他者と協働しながら、課題の解決や新しい価値の創造を行うための知識や姿勢について学ぶ授業科目です。

地域社会や地球環境など俯瞰した視野から未来を捉えることを目指します。

③教養科目

基本的なものの見方や知識を幅広く理解するとともに、主体的な学びを通して汎用的能力を育成し、良識ある社会人として求められる豊かな人間性を養うための授業科目を開講します。

愛大スタンダード科目

愛媛大学生として豊かな教養を身に付けるため、所属の学部の専門分野にとらわれず、様々な学問領域の概要や基本知識を幅広く理解することを目指す授業科目を開講します。

愛大プライム科目

「輝く個性で 地域を動かし世界とつながる大学」のスローガンのもと、特色のある教育プログラムが提供される授業科目を開講します。学内外での演習や宿泊を伴う研修などにも積極的に取り組み、愛媛大学ならではの学びに触れることを目的とします。例えば、「未来思考セミナー」は、「Beyond SDGs」「未来思考リテラシー」で学んだことを踏まえて、未来社会について予測したり展望を描いたりする対面によるゼミナール形式の授業科目です。さまざまなトピックについて未来思考の実践を行うことを目指します。

課題発見基礎セミナー

授業で解説された主題を基に、受講生が自ら課題（問い）をみつけ、授業内外における情報の収集や分析をとおして、主体的に探究学習を行うことを目的とする授業科目を開講します。能動的な学修の姿勢が求められます。

大学間連携科目

他大学と協力し、多岐に渡る分野の授業が実施される授業科目を開講します。大学コンソーシアムえひめ参加大学によるオムニバス形式の講義や、四国5大学連携共同実施による「知プラe科目」が開講されます。愛媛大学以外の大学教員からも、様々な学びを得てください。

初修外国語

「ドイツ語」、「フランス語」、「中国語」、「朝鮮語」とこれまで学ぶ機会がほとんどなかった英語以外の外国語を学ぶための授業科目を開講します。1年間を通して同一言語4単位を修得することを目指します。

教員免許に関する科目

「教職日本国憲法」及び「スポーツと教育」の2つの授業科目を開講します。教育職員免許状の取得を目指す学生以外は履修できません。詳細はP12に記載している履修条件を確認してください。

④発展科目

本学独自の資格取得を目的とする授業科目や全学的な副専攻的授業科目を開講します。発展科目には、「愛媛の食と農の持続可能性に関する科目」、「SUIJI サーバント・リーダー養成に関する科目」、「環境ESD指導者養成に関する科目」、「愛媛大学リーダーズ・スクールに関する科目」、「スキルアップ科目」があります。

⑤留学生対象科目

留学生の皆さんが日本での生活や学習に対応できるように、基礎レベルの日本語、日本の文化や伝統、日本社会の現実等について学ぶ授業科目を開講します。

1
主要
ス
ケ
ジュール

2
愛
大
学
生
コ
ン
ピ
ュ
ー
シ
ー

3
教
育
の
理
念
と
教
育
方
針

4
大
学
で
学
ぶ
基
本
知
識

5
単
位
制
度

6
履
修
登
録
単
位
数
の
上
限

7
履
修
コ
ー
ス
の
決
定

8
教
育
目
録
履
修
課
程
表
履
修
方
法
科
目
ナ
ン
バ
ー

9
履
修
登
録
手
続
き
等

10
他
教
育
コ
ー
ス
・
他
学
部
履
修
課
目

11
単
位
互
換
科
目
・
他
学
部
履
修
課
目

12
受
講
上
の
注
意
事
項

13
試
験
・
成
績

14
卒
業
見
込
・
卒
業
研
究
履
修
要
件

15
卒
業
認
定
・
早
期
卒
業

16
転
学
部

17
学
び
の
サ
ポ
ー
ト

18
教
育
職
員
免
許
状

19
そ
の
他
の
資
格
に
つ
い
て

20
学
内
諸
規
程

(2) 教育課程表

授業科目の区分等	授業科目	単位数	必修	最低修得単位数	週授業時間																	
					1年次				2年次				3年次									
					前学期		後学期		前学期		後学期		前学期		後学期							
					1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q						
基盤科目	新生セミナー	2	○	11	2																	
	こころと健康	1	○		2																	
	スポーツ	1	○		2																	
	英語	English Foundation	1		○				2													
		English Communication Strategies	2		○	4	4															
	社会力入門	1	○					2														
	情報リテラシー入門	情報リテラシー入門Ⅰ	1		○	2																
		情報リテラシー入門Ⅱ	1		○		2															
知的財産入門	1	○			2																	
未来思考支援科目	Beyond SDGs	1	○	2					2													
	未来思考リテラシー	1	○							2												
教養科目	愛大スタンダード科目	自然	自然法則の探究	1	3	9																
			宇宙・地球のすがた	1																		
			物質の構造と変化	1																		
		技術	技術の力	1																		
			科学技術と人間	1																		
		生命	データリテラシー入門	1																		
			生命と物質	1																		
			生命の営み	1																		
		人間	生命を守る	1																		
			多様性と共生	1																		
		制度	ことばの力	1																		
			文化・芸術を読み解く	1																		
			ビジネスリサーチ	1																		
		社会	政治・経済の考え方	1																		
	なぜ法を知るべきか		1																			
	歴史からの問い		1																			
	地理から見た世界		1																			
		環境と社会	1																			
		愛大プライム科目	1						(2)	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)				
		愛大プライム科目	2						(2)	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)				
		課題発見基礎セミナー	1						(2)	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)				
		課題発見基礎セミナー	2						(2)	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)				
		大学間連携科目	1						(2)	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)				
		大学間連携科目	2						(2)	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)				
	初修外国語	初級ドイツ語Ⅰ、初級フランス語Ⅰ、初級中国語Ⅰ、初級朝鮮語Ⅰ	各1													4						
		初級ドイツ語Ⅱ、初級フランス語Ⅱ、初級中国語Ⅱ、初級朝鮮語Ⅱ	各1														4					
		初級ドイツ語Ⅲ、初級フランス語Ⅲ、初級中国語Ⅲ、初級朝鮮語Ⅲ	各1															4				
初級ドイツ語Ⅳ、初級フランス語Ⅳ、初級中国語Ⅳ、初級朝鮮語Ⅳ		各1																4				
教員免許に関する科目	スポーツと教育	1												2								
	教職日本国憲法	2												2								
教養科目 計					12																	
発展科目	(科目の詳細についてはP12～15参照)							修得した単位は卒業要件には含まれません														
留学生対象科目	(科目の詳細についてはP15参照)							外国人留学生対象の科目です														
共通教育科目 計					25																	

「週授業時間」は、1週間あたりの授業開講時間数を示します。愛媛大学では、1回90分の授業を2時間として計算するため、「2」の場合は週に「1回」、
「4」の場合は週に「2回」開講されることを示します。なお、愛大プライム科目、課題発見基礎セミナー、大学間連携科目は、上表の履修時期に開講がない
場合や集中講義として開講される場合があるため、「週授業時間」を（ ）を用いて表しています。

注1 English Communication Strategiesの履修時期は、学生証番号の中の3桁の「個人番号」（P45参照）によって以下のように指定されています。

学生証番号の中の個人番号が 1～190、381～475・・・第1クォーターに履修

学生証番号の中の個人番号が 191～380、476～・・・第2クォーターに履修

注2 教養科目12単位のうち3単位以上は愛大スタンダード科目から修得してください。

注3 愛大スタンダード科目の「週授業時間」欄の（ ）内は、各クォーターで履修できる科目数の上限を表しています。

(3) 履修方法

①履修上の注意事項

1) 重複履修の禁止

一度履修して単位を修得した授業科目を、再度履修することはできません。ただし、一部の授業科目では、重複履修が認められています。

2) 夜間開講科目の履修禁止

法文学部夜間主コース以外の学生は、夜間開講の共通教育授業科目を履修することはできません。ただし、6時限目に開講される初修外国語はこの限りではありません。

②教養科目

教育上の効果や円滑な授業運営を図るため、一部の授業科目を除いて各授業科目に受講定員を設けています。履修登録者数が定員を超えた場合は修学支援システムの抽選機能を用いて抽選が行われますので、必ず抽選結果を確認し、抽選漏れした場合は履修登録修正期間中に他の授業科目を登録してください。抽選後の登録は先着順となります。

なお、集中講義では、履修登録者数が定員に達すると、登録を締め切る場合があります。

愛大スタンダード科目

工学部では、愛大スタンダード科目は人間・制度・社会を含めて履修することを推奨します。

1) 1年次の後学期から履修できます。1年次の後学期（第3クォーター・第4クォーター）、2年次の前・後学期（第1クォーター～第4クォーター）、3年次の前学期（第1クォーター・第2クォーター）は、学部ごとに指定された月曜日から土曜日開講の授業科目群の中から履修してください。

なお、土曜日開講の授業科目は法文学部夜間主コースのみ履修できます。

2) 3年次前学期までは、クォーターごとに履修できる授業科目数に上限があります。教育課程表（P10）の「週授業時間」欄に記された（ ）内が、各クォーターで履修できる科目数の上限となりますので確認してください。3年次第3クォーター以降は授業科目群及び科目数に制限なく自由に履修できます。

3) 各クォーターで履修できるのは原則として各曜日1科目までです。

4) 同一科目名でも、担当教員が異なれば、重複履修ができ、単位を修得できる科目です。

課題発見基礎セミナー

1) 1年次の前学期から履修できます。授業題目が科目によって異なりますので、シラバスで授業題目を確認のうえ履修してください。

2) 担当教員が異なれば、重複履修ができ、単位を修得できる科目です。（同じ担当教員が1単位科目の課題発見基礎セミナーと2単位科目の課題発見基礎セミナーを開講している場合は、別科目となりますので両方を履修できます。）

初修外国語

1) 初修外国語は、「ドイツ語」、「フランス語」、「中国語」、「朝鮮語」の言語ごとに、第1クォーターから第4クォーターまで、それぞれⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ（例、「初級ドイツ語Ⅰ」～「初級ドイツ語Ⅳ」）の授業科目が、毎週2回ずつ開講され、3年次から履修できます。

2) 初修外国語は、同一言語を前学期・後学期と継続して受講することを前提に、1年間通して開講されます。

前学期（第1クォーター・第2クォーター）についてはⅠとⅡの授業科目を、後学期（第3クォーター・第4クォーター）についてはⅢとⅣの授業科目をセットで履修してください。（ⅠとⅡの単位を両方修得していなければ、ⅢとⅣの履修はできません。）

3) 初修外国語に含まれるいずれかの言語を母語とする学生は、当該外国語を履修することができません。

4) 異なる言語の科目を複数履修することも可能です。（重複履修にはあたりません。）

愛大プライム科目

- 1) 1年次の前学期から履修できます。
- 2) 授業題目が異なれば、重複履修ができ、単位を修得できる科目です。

大学間連携科目

- 1) 1年次の前学期から履修できます。
- 2) 大学間連携科目のうち、四国5大学連携共同実施による「知プラe科目」については、詳しい受講方法を以下のサイトで確認してください。

☞ 大学連携e-Learning教育支援センター四国ホームページ（愛媛大学学生向け履修案内）

- 3) 授業題目が異なれば、重複履修ができ、単位を修得できる科目です。



教員免許に関する科目

教育職員免許状の取得を希望する学生以外は履修できません。

教員免許に関する授業科目の履修条件は次のとおりです。

【教職日本国憲法】の履修条件

- 1) 「教職履修ガイダンス」に出席していること
- 2) 「教職基礎論」を修得済みであること

【スポーツと教育】の履修条件

- 1) 「教職履修ガイダンス」に出席していること
- 2) 「教職基礎論」を修得済みであること
- 3) 「スポーツ」を修得済みであること

※「工業」の高等学校教諭一種免許状の取得を希望する者については、「教職履修意思確認書」の提出を2)の代替条件とすることができます。

※第I期リフレクション・デイに参加し、教職課程学習ポートフォリオ（リフレクション・ログを含む）を提出していることを2)の代替条件とすることができます。

※「教職履修ガイダンス」は前学期中に開催予定です。詳細は教職教育チームにお問い合わせください。

③発展科目

愛媛の食と農の持続可能性に関する科目

本プログラムは、持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向けて、フードバリューチェーン（Food Value Chain）と食料安全保障（Food Security）の重要性を理解し、食と農の持続可能性について探求することを目的としています。所定科目の単位を修得し、修了要件を満たした学生には、「Sustainable-FVCプログラム修了証」が授与されます。なお、本プログラムは英語（音声・字幕）で提供されます。プログラムの詳細については以下のサイトで確認してください。

☞ https://aac.isc.ehime-u.ac.jp/ehimeu_asean-gfs



【修了認定】

本プログラムの修了認定を受けるためには、所定の授業科目を修得する必要があります。次の表にしたがって計画的に履修してください。なお、履修を希望する学生は、每学期初めに開催されるガイダンスに出席することが必要です。

愛媛の食と農の持続可能性に関する科目	単位	1年次生以上		2年次生以上	
		前	後	前	後
SDGs×Food-Value-Chain in Ehime for Glocal Food Security	1	○	○		
田舎×持続可能性でブランド化する愛媛と世界の経済学	1	○	○		
食と農の持続可能性と地域のイニシアティブ※	1				○
食と農のマルチスピーシーズ持続可能性理論※	1				○
合計	4				

※社会共創学部の専門教育科目として開講される科目です。

SUIJIサーバント・リーダー養成に関する科目

グローバルな視野を持ちながら、地域に立脚し、未来社会の持続的発展に貢献できる国際的なサーバント・リーダーの育成を目的としています。所定科目の単位を修得し、修了要件を満たした学生には、SUIJIコンソーシアム※より、SUIJI サービスラーニング・プログラムコースの修了証が授与されます。

※SUIJI コンソーシアムは、愛媛大、香川大、高知大、ガジャマダ大、ポゴール農業大、ハサヌディン大の6大学からなるコンソーシアム。SUIJIはSix-University Initiative Japan Indonesiaの略。

【修了認定】

SUIJI サービスラーニング・プログラムコースの修了認定を受けるためには、所定の授業科目を修得する必要があります。次の表にしたがって、計画的に履修してください。なお、履修を希望する学生は、毎学期初めに開催されるガイダンスに出席することが必要です。

SUIJI サーバント・リーダー養成に関する科目	単位	1年次生以上		2年次生以上	
		前	後	前	後
SDGsーグローバル未来創成入門※1	2	○			
ベーシック国内サービスラーニング※2	4	○			
ベーシック海外サービスラーニング※2	4		○		
アドバンスド国内サービスラーニング※2	4			○	
アドバンスド海外サービスラーニング※2	4				○
合計	18				

※1 「環境ESD指導者養成に関する科目」で開講される授業科目です。

※2 開講時期については変更となる場合があります。

環境ESD指導者養成に関する科目

国連SDGs (SDGs: Sustainable Development Goals) の達成を目指して、持続可能な社会づくりのための教育 (ESD: Education for Sustainable Development) を担うことのできる環境ESD指導者の育成を目的としています。

本コースでは、国連SDGs (持続可能な開発目標) と地域規模の環境・経済・社会問題について学ぶほか、フィールド調査や公開講座の企画・開催を行います。

所定の単位を修得し、修了要件を満たした学生には、環境ESD指導者養成コースの修了認定証を授与します。

【修了認定】

環境ESD指導者養成コースの修了認定を受けるためには、所定の授業科目を修得する必要があります。次の表にしたがって、計画的に履修してください。なお、履修を希望する学生は、毎学期初めに開催され

1 主要スケジュール
2 愛媛大学学生コンベンション
3 学部の理念と教育方針
4 大学で学ぶ基本知識
5 単位制度
6 履修登録単位数の上限
7 履修コースの決定
8 教育目標・教育課程表履修方法科目ナンバリング
9 履修登録手続き等
10 他教育コース・他学部授業科目履修
11 単位互換科目・他
12 受講上の注意事項
13 試験・成績
14 卒業要件
15 卒業認定・早期卒業
16 転学部
17 学びのサポート
18 教育職員免許状
19 その他の資格について
20 学内諸規程

るガイダンスに出席することが必要です。

環境ESD指導者養成コース修了認定科目	単位	1年次生以上		2年次生以上	
		前	後	前	後
SDGsーグローバル未来創成入門	2	○			/
環境ESD指導者養成講座Ⅰ	4		○		
環境ESD指導者養成講座Ⅱ	4			○	
合計	10				

愛媛大学リーダーズ・スクール (ELS) に関する科目

本プログラムは、在学中ならびに卒業後に地域・国際社会に貢献し得るリーダーを養成する、愛媛大学独自の取り組みです。

受講生は、教職員からの指導や先輩学生からのサポート等を通して、自身のリーダーとしてのスキルやマインドを開発・成長させることができます。

プログラムの詳細については以下のサイトで確認してください。

☑ 愛媛大学リーダーズ・スクール



【資格認定】

本プログラムでは、授業を含めた以下の要件を満たすことによって、本学公認の資格「愛媛大学リーダーズ・ライセンス」を取得することができます。

1. 授業科目「愛媛大学リーダーズ・スクール」の履修（必修）
2. 授業科目「ファシリテーションとリーダーシップ」(EFL) の履修（必修）
3. ELS認定科目の履修（選択必修）
4. ELS / EFL / 西日本学生リーダーズ・スクール (UNGL) プロジェクト等のリーダー経験
5. その他ELS授業内でアナウンスする学内外のセミナー・研修等の受講

愛媛大学リーダーズ・ライセンスを取得するためには所定の授業科目を修得する必要があります。次の表にしたがって、計画的に履修してください。

授業科目		単位	1年次生～4年次生	
			前期	後期
必修	愛媛大学リーダーズ・スクール	2	集中	/
	ファシリテーションとリーダーシップ	2		
選択必修	グローバル・リーダーシップⅠ※	1	/	集中
	グローバル・リーダーシップⅡ※	1		集中
	グローバル・リーダーシップⅢ※	1		集中
	グローバル・リーダーシップⅣ※	1		集中
	リーダーシップ・フィールド演習Ⅰ※	2		集中
	リーダーシップ・フィールド演習Ⅱ※	2		集中
	リーダーシップ・フィールド演習Ⅲ※	2		集中
	その他のELS認定科目	1～2		随時履修

※重複履修ができ、単位を修得できる科目です。

スキルアップ科目

スキルアップ科目とは、基礎的な科目を習得した後、さらに経験を積みたい、また、高度な内容を学び知識を深めたい、継続して学びたい場合に履修できる発展的な科目です。

授業科目名	単位	開講時期	授業科目の概要
英語S1	2	夏季集中	海外での短期語学研修に参加した学生に対して、研修先より発行された修了証等を確認し、単位を認定する授業です。なお、事前・事後指導の受講が義務づけられており、それらを適切に受講していない場合は、単位認定は行われません。なお、いずれも重複履修ができ、単位を修得できる科目です。
英語S2	2	春季集中	
英語S3	2	前・後学期	

④留学生対象科目

外国人留学生（大学において教育を受ける目的をもって入国し、本学に入学した外国人留学生）及び外国人留学生以外の学生で外国において相当の期間、中等教育（中学校又は高等学校で受ける教育に相当する）を受けた学生（帰国子女）のうち、所属する学部で履修を許可された学生に対して、次のような授業科目を開講しています。これらの授業科目には履修上の特例が定められています。詳しくは各学部の指示に従って履修してください。

区分	授業科目	単位	原則的な履修年次（単位）			
			1年次			
			前学期		後学期	
			第1クォーター	第2クォーター	第3クォーター	第4クォーター
日本語科目	アカデミックジャパニーズ1	1	1			
	アカデミックジャパニーズ2	1		1		
	アカデミックジャパニーズ3	1			1	
日本事情に関する科目	日本事情A 1※	2	2			
	日本事情A 2※	2			2	
	日本事情B 1※	2	2			
	日本事情B 2※	2			2	

※同一科目名でも、担当教員が異なれば、重複履修ができ、単位を修得できる科目です。

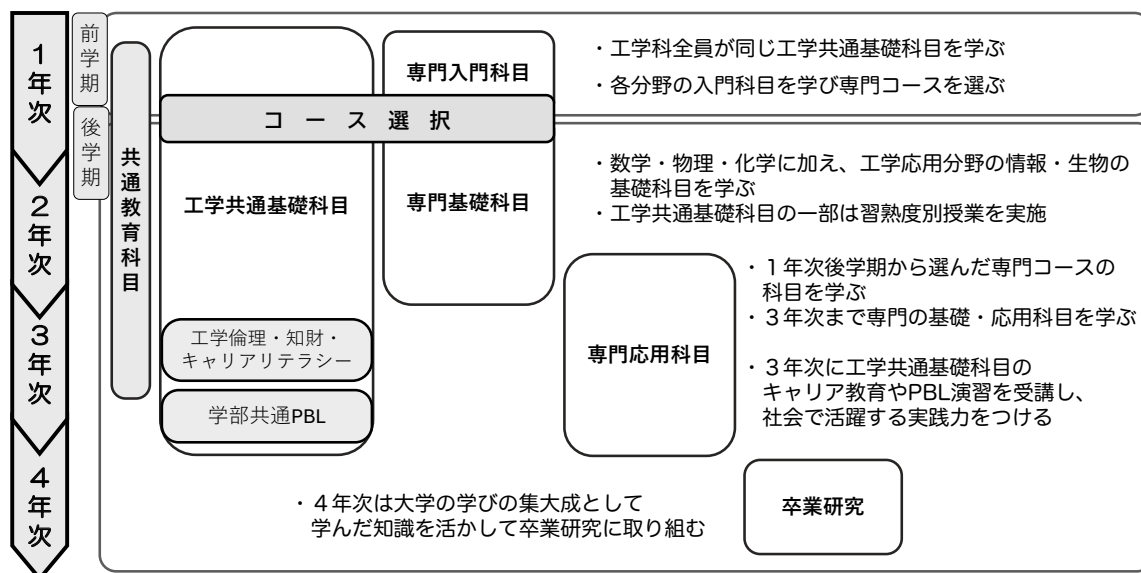
外国人留学生が、上表の授業科目について次の表の第1欄に掲げる単位を修得したときは、学部の定めるところにより、第2欄に掲げる単位に代えることができます。なお、「日本語科目」と「英語」の単位を合算して3単位にすることはできません。

第1欄	第2欄
日本語科目 3単位	英語 3単位
日本事情に関する科目 8単位まで	教養科目 8単位まで

8-2 専門教育科目

(1) 教育目標

工学科では、まず基礎をしっかりと学習したのち、専門知識を身につけるための深い学びと実践力の養成へと繋がるよう、カリキュラムが組まれています。



工学科のカリキュラムは図に示すように、共通教育科目、工学共通基礎科目、専門入門科目及び教育コースそれぞれに特徴ある教育を実施する専門基礎科目、専門応用科目から構成されています。

共通教育科目の基盤科目では、大学での学びを進めるための基礎的な知識と技能を学習します。また、専門分野の基礎を学んだあと、1年次の後学期から3年次前学期で教養科目を履修することで、社会との関連を意識して、自己の学びを深めます。

工学共通基礎科目は工学科の学生全員が同じ内容の授業を受講します。1年次の工学共通基礎科目では、「微積分ⅠA」、「線形代数Ⅰ」、「物理基礎Ⅰ、Ⅱ」、「化学基礎」などの科目で、工学系技術者・研究者を目指す学生が基本的に身につけなければならない知識・技能の基礎を学習します。「工学リテラシー」では、各教育コースの特徴や主な研究テーマを、生命・環境・エネルギー・社会・情報と科学技術の関わり合いの観点から学びます。「基礎プログラミング」、「基礎データサイエンス」では、現代の情報社会に不可欠なデータサイエンスの基礎を演習も交えながら学習します。また、教育コースの入門的な科目でもある「専門入門科目」が開講され、全員がすべての分野の基礎を学習します。

1年次後学期には、学生は機械工学コース、知能システム学コース、電気電子工学コース、コンピュータ科学コース、応用情報工学コース、材料デザイン工学コース、化学・生命科学コース、社会基盤工学コース、建築・社会デザインコース、海事産業特別コースの10教育コース及びデジタル情報人材育成特別プログラムに分かれて専門教育科目の専門基礎科目を履修します。所属する教育コース等ごとに開講される専門教育科目の授業科目を受講することにより、より専門性を深めた知識・技能の修得を目指します。

2年次の後学期以降は、専門応用科目でより高い専門知識・技能を学習するとともに、卒業後を意識しつつ自己の学びを深めることができるよう、工学共通基礎科目として「学部共通PBL」、「工学倫理・知財・キャリアリテラシーⅠ、Ⅱ」を履修します。各教育コース・プログラムにおいて、4年次に学生は研究室に配属され、卒業研究として各教育コース・プログラムに関連した先端研究を行います。卒業研究に取り組むことにより、学んだ知識や技術を実践・応用する力、社会で未解決の問題を解決する能力を養います。

・機械工学コース

機械工学に関する基礎的知識と機械に関連するものづくりや問題解決、コミュニケーションに必要な学問的知識・実践的スキルを修得させ、豊かな人間性と自立した創造力に富む機械技術者を育成するための教育を行います。2年次では、機械工学の中核をなす4大力学である材料力学、熱力学、流体力学、機械力学を理解するための専門基礎科目を学びます。製図に関する複数の実習を行い、コンピュータを駆使した機械設計に関する実用的能力を伸ばします。3年次の応用系科目では、4大力学の応用科目、4大力学以外の機械工学を構成する種々の科目を受講します。講義で学んだ専門知識を、実験・実習を通じてより深く理解するために、機械工学実験を受講します。

・知能システム学コース

知能システム学に関する基礎的知識と知能システムに関連するものづくりや問題解決、コミュニケーションに必要な学問的知識・実践的スキルを修得させ、豊かな人間性と自立した想像力に富む知能システム技術者を養成するための教育を行います。機械工学の中核をなす4大力学である材料力学、熱力学、流体力学、機械力学の基礎を学び、専門的な数学、力学である応用数学、応用力学を身につけ、設計・製作に関する授業やコンピュータを駆使した機械設計に関する実用的能力を伸ばします。3年次では知能システム学に関する専門の応用系科目として、制御基礎理論、ロボット・生体工学、情報処理と機械系をつなぐシステム理論、メカトロ・人工知能工学などの最先端の授業を受講します。また、これらの講義で学んだ知識を、実験・実習を通じて理解するための実験科目が用意されています。

・電気電子工学コース

電気エネルギーに関わる技術から、信号処理や通信システムなどの情報技術、半導体などの材料技術にいたるまで、電気電子工学について豊かな教養を持ち実践的能力を身につけた技術者を育成するための教育を行います。2年次には、電気電子工学の基盤となる電気磁気学、電気回路、電子回路などの講義科目および実験科目を履修し、電気電子工学分野の基本的な機器の取扱を含む実験技術・安全衛生・科学倫理と実践的なスキルを涵養します。また、3年次には電気系や通信系、材料系などの科目も履修し、専門性をより高めます。4年次では、知的財産や工場管理などの科目を学ぶことで、卒業後の実務に向けた知識を深めます。

・コンピュータ科学コース

知能情報社会を構築するために必要な数理科学、コンピュータ科学および人工知能を含むデータサイエンスの知識・技術を修得し、課題解決のためにデータを分析し、その解決方法をコンピュータシステムとして実現できる高度情報処理技術者を育成するための教育を行います。コンピュータ科学の技術を習得するために、ハードウェアに関する基礎理論、ミドルウェアに関する基礎理論、ソフトウェアに関する基礎理論、プログラミング言語を学びます。人工知能を含むデータサイエンスの技術を習得するために、数学、数理科学、機械学習を学びます。

・応用情報工学コース

社会に存在する課題に挑み、その解決に向かって考え、自己の成長を持続的に行える実践的能力を備えた技術者を育成するための教育を行います。情報工学・通信工学の分野学習で基盤となる論理回路、プログラミング言語、オペレーションシステムなどを学びます。さらに、マーケティングやデザイン思考、サイバーセキュリティなどの講義やその他演習科目を履修することで、情報工学・通信工学に関する知識・知見をもとに、社会の直面する課題の解決に取り組む、実践的能力の涵養を図ります。

・材料デザイン工学コース

材料開発に必要な実験手法を学び、新しい材料を開発する知識・技術を習得します。材料に関して、物理学、化学、金属工学、無機材料工学、機械工学、電気・電子工学などの物質に関連する学問分野を幅広く

1
主要
ス
ケ
ジュール

2
愛
大
生
活
コ
ン
ピ
ュ
ー
タ
シ
ス
テ
ム

3
教
育
の
理
念
と
教
育
方
針

4
大
学
で
学
ぶ
基
本
知
識

5
単
位
制
度

6
履
修
登
録
単
位
数
の
上
限

7
履
修
コ
ー
ス
の
決
定

8
教
育
目
標
履
修
課
程
表
履
修
方
法
シ
ス
テ
ム

9
履
修
登
録
手
続
等

10
他
教
育
コ
ー
ス
履
修

11
単
位
互
換
科
目

12
受
講
上
の
注
意
事
項

13
試
験
成
績

14
卒
業
研
究
履
修
要
件

15
卒
業
認
定
・
早
期
卒
業

16
転
学
部

17
サ
ポ
ー
ト
の
学
び

18
教
育
職
員
免
許
状

19
そ
の
他
の
資
格

20
学
内
諸
規
程

く学び、新しい機能を持った材料を開発できる人材を育成するための教育を行います。1年次のコース配属後に金属組織学・力学・熱力学などの物理科目、2年次に材料物理化学・材料強度学などの材料学の基礎科目を学びます。そして、材料工学実験科目を通じて実際の自然現象と座学の知識を有機的に関連づけていきます。また、科学技術英語の受講から英語で科学技術を表現できる能力も身に付けます。3年次では誘電体材料学、半導体材料工学、磁性材料学などの各種材料の専門的知識を学び、セラミックス材料工学や金属材料学を受講して材料学を総合的に学習します。

・化学・生命科学コース

化学や生命科学の知識を総合的に活用して、社会が抱える問題の解決策を提示できる人材を育成するための教育を行います。化学・生命科学分野における基礎から応用に至る広い範囲の講義や実験から成る体系的なカリキュラムを用意しています。必修の応用化学実験Ⅰ～Ⅲでは、化学・生命科学コースに共通した基幹的な考え方や実験技術を身に付けます。また、選択科目として基本的専門知識を身に付けるための科目群と身に付けた基本的な知識をさらに発展させるための科目群があり、学生個々の興味や将来設計に合わせて自主的・意欲的に授業を選択することができるようになっています。3年次後学期の化学・生命科学演習では、卒業研究に直結する専門知識や実験技術を学びます。卒業研究と並行して専門性の高い学術論文を講読する科目が配されており、当該専門分野におけるものの考え方を学び知識を深めることで卒業研究の充実を図ります。

・社会基盤工学コース

土木工学に係わる専門科目の習得により社会基盤整備、持続的な環境創造を担えるエンジニアを育成するための最新のデジタル技術も組み込んだ教育を行います。2年次では、専門基礎科目として、構造力学、土質力学、水理学といった、三力と呼ばれる土木工学の根幹を成す分野の講義や、土木計画学、コンクリート材料、測量学、地球生態学といった土木工学のあるべき姿を理解する上で必須となる講義を受講します。3年次以降では、専門の応用系科目が設置され、建築分野科目も含み学修します。また、多くの実験・実習科目があり、これらの受講を通じて、講義で学んだ内容のより深い理解と定着を図ります。

・建築・社会デザインコース

建築と土木の見聞を横断的に活用し、機能性と感性を両立した建築・都市空間を総合的かつ戦略的に構想し実現するアーキテクト・エンジニアを育成するための教育を行います。2年次では、専門基礎科目として、建築設計製図に加え、建築計画、建築構造、建築材料といった建築分野の基礎的な講義と、構造力学、土質力学、水理学、土木計画学といった土木工学の根幹を成す分野の講義から選択して受講します。3年次以降では、専門の応用系科目が設置されています。県内のリアルなまちを舞台に、公民学の連携のもと、設計や防災やまちづくり・合意形成などを実践的に学びながら一級建築士の受験資格が取得できます。

・海事産業特別コース

海事産業を発展させる為に必要な船、機械工学、知能システム工学、電気工学についての知識を学び、問題解決、コミュニケーションに必要な実践的技能を修得するための教育を行います。2年次では、船舶工学、海洋工学の入門科目と、ものづくり基礎である機械工学、電気工学、生態学、プログラミングの基礎を理解するための専門基礎科目を学びます。製図に関する複数の実習、コンピュータを駆使した設計に関する実用的能力を伸ばします。3年次の応用系科目では、ロボットやAI、パワーエレクトロニクス、海洋物理学、海に関連する経済や法規など、海事産業を発展させるために必要な幅広い分野の講義を受講します。また、自立運航船の制作、インターンシップ、実験を受講します。

・デジタル情報人材育成特別プログラム

知能情報社会を構築するために必要な数理科学、コンピュータ科学、人工知能を含むデータサイエンスおよび情報工学の知識・技術を修得し、課題解決のためにデータを分析し、その解決方法をコンピュータ

機械工学コース

分類	必修	科目名	単位数	週授業時数												備考				
				1年				2年				3年					4年			
				前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後					
		○ 微積分ⅠB	2		2	2														
		○ 微積分Ⅱ	2		2	2														
		○ 線形代数Ⅱ	2		2	2														
		○ 機械基礎力学	2		2	2														
		機械加工学	2		2	2														
		○ 機械製図法	2		2	2														
		機械材料学	2		2	2														
		C言語基礎	2		2	2														
		○ 応用数学Ⅰ (機械系)	2				2	2												
		○ 応用力学	2				2	2												
		○ 機械製作実習	1				3	3												
		○ 材料力学Ⅰ	2				2	2												
		材料力学演習	1				2	2												
		○ 熱力学Ⅰ	2				2	2												
		熱力学演習	1				2	2												
		ロボット機構学	2				2	2												
		船舶工学入門	2				2	2												
		電気電子工学概論	2				2	2												
		応用機械材料学	1					2												
		○ CAD実習	1					3	3											
		○ 機械設計法	2					4												
		応用加工学	2					2	2											
		応用数学Ⅱ (機械系)	2					2	2											
		○ 機械力学Ⅰ	2					2	2											
		機械力学演習	1					2	2											
		材料力学Ⅱ	2					2	2											
		熱力学Ⅱ	2					2	2											
		○ 流体力学Ⅰ	2					4												
		流体力学演習	1					4												
		海洋工学入門	2					2	2											
		小計	53		16	16	21	21	27	21										
		伝熱工学演習	1							2	2									
		企業倫理	2							2	2									
		機械力学Ⅱ	2							2	2									
		産業経済論	2							2	2									
		制御基礎理論	2							2	2									
		制御基礎理論演習	1							2	2									
		○ 設計製図	2							4	4									
		伝熱工学	2							2	2									
		流体力学Ⅱ	2							4										
		海事技術	2							2	2							集中講義		
		インターンシップ(機械・システム)	1								2									
		○ 機械工学実験	2							3	3	3	3							
		技術英語 (機械系)	2									2	2							
		キャリア形成セミナー(機械・システム)	1									2	2							
		メカトロ・人工知能工学	2									2	2							
		ロボット・生体工学	2									2	2							
		制御・福祉工学	2									2	2							
		流体工学	2									2	2							
		基礎材料強度学	1									2								
		船舶性能基礎	1										2							
		エネルギーシステム工学	2										2	2						
		知的財産権	2										2	2						
		工場管理	2											2	2					
		○ 卒業研究	6												2	2				
		小計	46							29	23	17	17	4	4	2	2			
		総計	99		16	16	21	21	27	21	29	23	17	17	4	4	2	2		

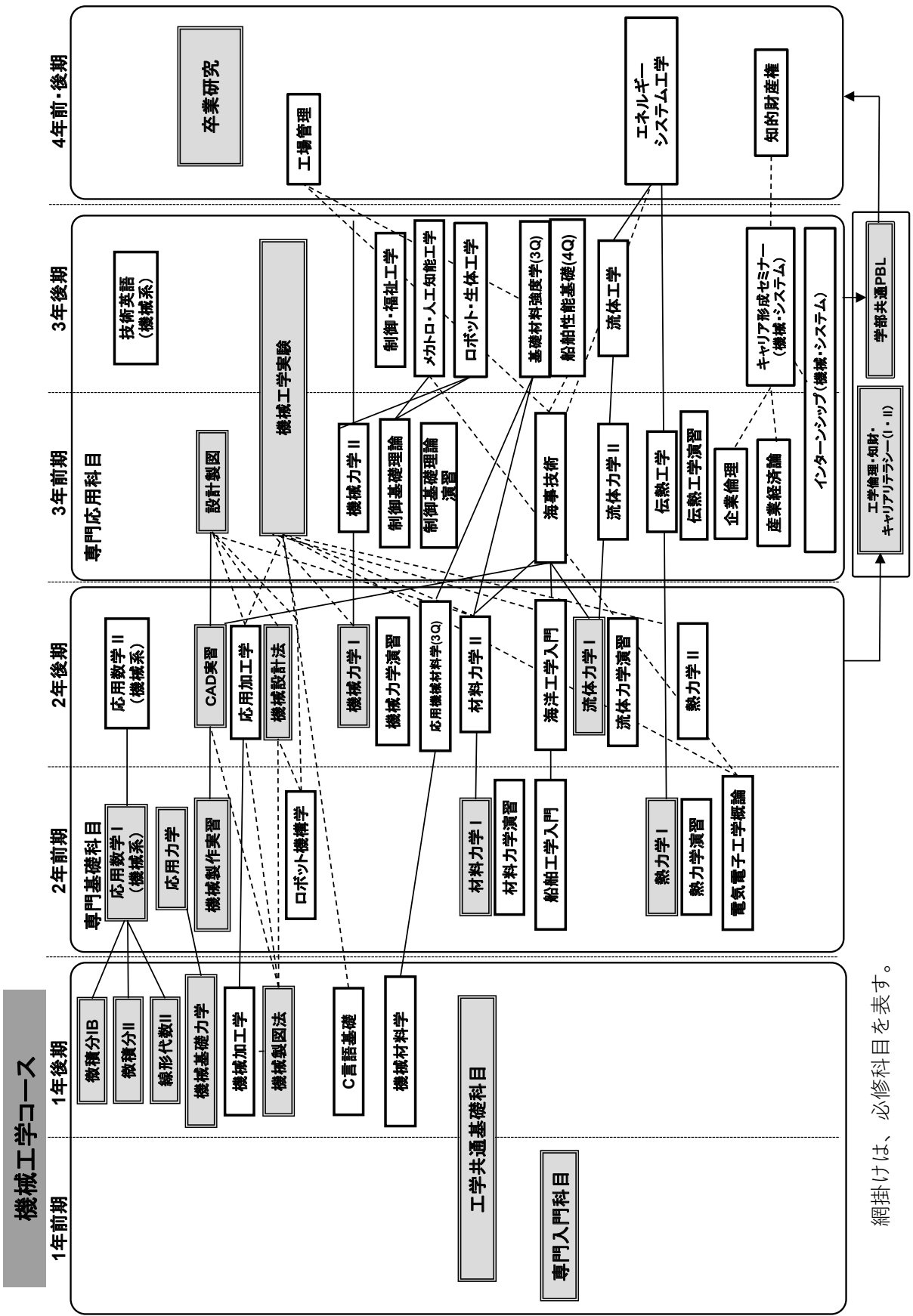
卒業研究履修要件

【共通教育科目】

- 基盤科目…………… 必修11単位を含む11単位
- 未来思考支援科目… 必修2単位を含む2単位
- 教養科目…………… 10単位以上。ただし、愛大スタンダード科目3単位を含むこと。

【専門教育科目】

- 工学共通基礎科目… 必修15単位を含む15単位
- 専門入門科目… 必修6単位含む6単位以上
- 専門基礎科目… 必修科目22単位を含む38単位以上。ただし、「機械製図法」「機械製作実習」「CAD実習」を含むこと。
- 専門応用科目… 「卒業研究」以外の必修科目すべてを含む22単位以上



網掛けは、必修科目を表す。

- 1 主要シナリオ
- 2 愛大生コンピテンシー
- 3 学部との教育理念と教育方針
- 4 大学の基本知識
- 5 単位制度
- 6 履修登録単位数の上限
- 7 履修コースの決定
- 8 教育目標・教育課程表履修方法科目目
- 9 履修登録手続き等
- 10 他教育口入・他学部授業科目履修
- 11 単位互換科目・他
- 12 受講上の注意事項
- 13 試験・成績
- 14 卒業見込・卒業研究履修要件
- 15 卒業認定・早期卒業
- 16 転学部
- 17 サポートの学び
- 18 教育職員免許状
- 19 その他の資格について
- 20 学内諸規程

知能システム学コース

分類	必修	科目名	単位数	週授業時数																備考												
				1年				2年				3年				4年																
				前		後		前		後		前		後		前		後														
				1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q													
専門基礎科目	○	微積分ⅠB	2			2	2																									
	○	微積分Ⅱ	2			2	2																									
	○	線形代数Ⅱ	2			2	2																									
	○	機械基礎力学	2			2	2																									
		機械加工学	2			2	2																									
	○	機械製図法	2			2	2																									
		機械材料学	2			2	2																									
		C言語基礎	2			2	2																									
	○	応用数学Ⅰ (機械系)	2					2	2																							
	○	応用力学	2					2	2																							
	○	機械製作実習	1					3	3																							
	○	材料力学Ⅰ	2					2	2																							
		材料力学演習	1					2	2																							
	○	熱力学Ⅰ	2					2	2																							
		熱力学演習	1					2	2																							
		ロボット機構学	2					2	2																							
		船舶工学入門	2					2	2																							
		電気電子工学概論	2					2	2																							
		応用機械材料学	1							2																						
		シーケンス制御	2					2	2																							
	○	CAD実習	1							3	3																					
	○	機械設計法	2								4																					
		応用加工学	2							2	2																					
	○	応用数学Ⅱ (機械系)	2							2	2																					
	○	機械力学Ⅰ	2							2	2																					
		機械力学演習	1							2	2																					
		材料力学Ⅱ	2							2	2																					
		熱力学Ⅱ	2							2	2																					
	○	流体力学Ⅰ	2							4																						
		流体力学演習	1							4																						
		海洋工学入門	2							2	2																					
		小計	55			16	16	23	23	27	21																					
	専門応用科目		伝熱工学演習	1							2	2																				
		企業倫理	2							2	2																					
		機械力学Ⅱ	2							2	2																					
		産業経済論	2							2	2																					
○		制御基礎理論	2							2	2																					
		制御基礎理論演習	1							2	2																					
○		設計製図	2							4	4																					
		伝熱工学	2							2	2																					
		流体力学Ⅱ	2							4																						
		海事技術	2							2	2																			集中講義		
		インターンシップ(機械・システム)	1									2																				
○		知能システム学実験	2							3	3	3	3																			
		技術英語(機械系)	2									2	2																			
		キャリア形成セミナー(機械・システム)	1									2	2																			
○		メカトロ・人工知能工学	2									2	2																			
○		ロボット・生体工学	2									2	2																			
		制御・福祉工学	2									2	2																			
		流体工学	2									2	2																			
		基礎材料強度学	1											2																		
		船舶性能基礎	1													2																
		エネルギーシステム工学	2															2	2													
		知的財産権	2													2	2															
	工場管理	2																	2	2												
○	卒業研究	6																														
	小計	46									29	23	17	17	4	4	2	2														
	総計	101			16	16	23	23	27	21	29	23	17	17	4	4	2	2														

卒業研究履修要件

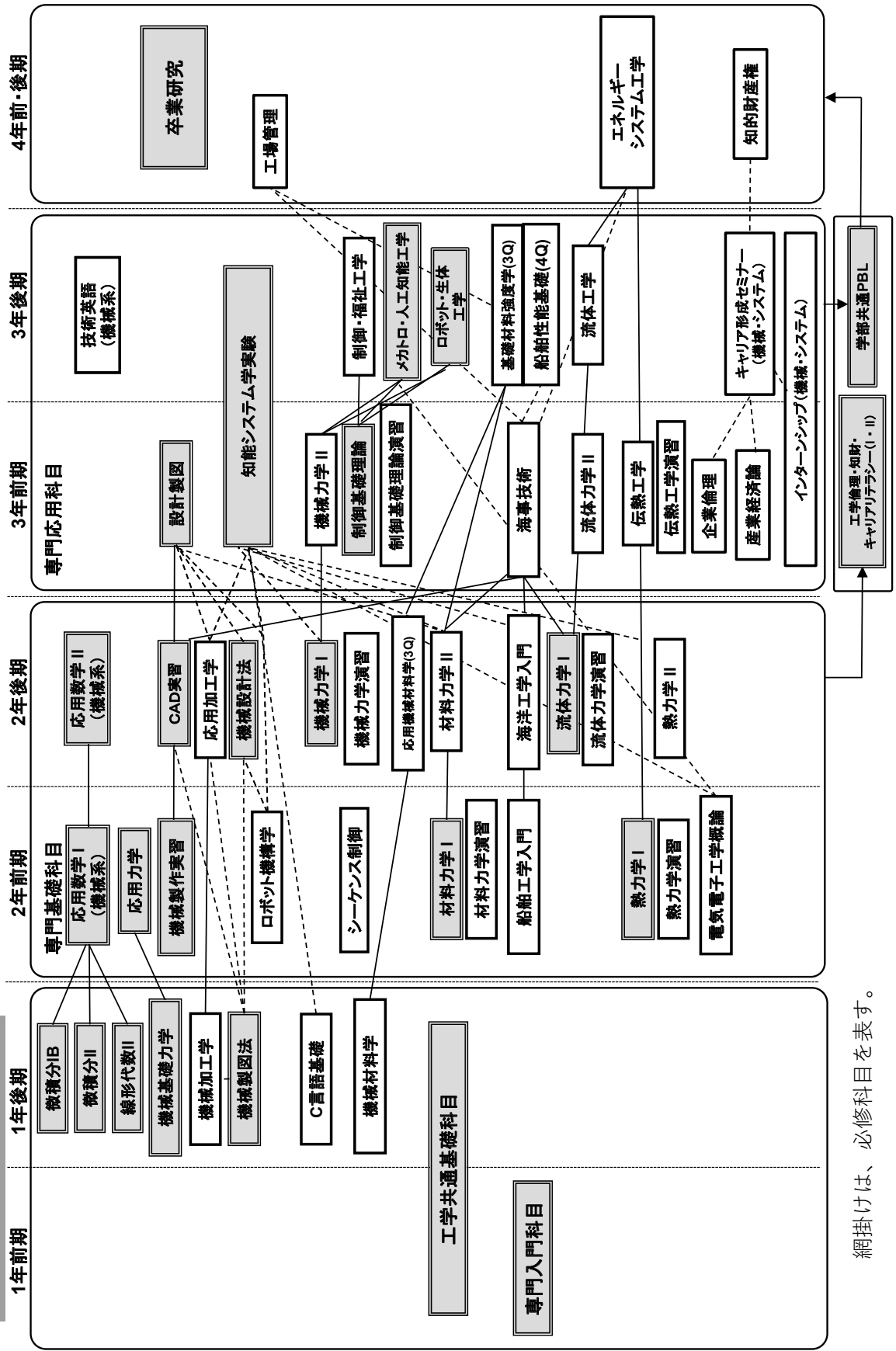
【共通教育科目】

- 基盤科目…………… 必修11単位を含む11単位
- 未来思考支援科目…… 必修2単位を含む2単位
- 教養科目…………… 10単位以上。ただし、愛大スタンダード科目3単位を含むこと。

【専門教育科目】

- 工学共通基礎科目…… 必修15単位を含む15単位
- 専門入門科目…………… 必修6単位含む6単位以上
- 専門基礎科目…………… 必修科目22単位を含む38単位以上。ただし、「機械製図法」「機械製作実習」「CAD実習」を含むこと。
- 専門応用科目…………… 「卒業研究」以外の必修科目すべてを含む22単位以上

知能システム学コース



網掛けは、必修科目を表す。

- 1 主要スケジュール
- 2 愛大学生コンピテンシー
- 3 学部の教育理念と教育方針
- 4 大学で学ぶ基本知識
- 5 単位制度
- 6 履修登録単位数の上限
- 7 履修コースの決定
- 8 教育目標・教育課程表履修方法科目目録
- 9 履修登録手続き等
- 10 他教育口入・他学部授業科目履修
- 11 単位互換科目・他
- 12 受講上の注意事項
- 13 試験・成績
- 14 卒業見込・卒業研究履修要件
- 15 卒業認定・早期卒業
- 16 転学部
- 17 学部のサポート
- 18 教育職員免許状
- 19 その他の資格について
- 20 学内諸規程

電気電子工学コース

分類	必修	科目名	単位数	週授業時数																備考				
				1年				2年				3年				4年								
				前		後		前		後		前		後		前		後						
				1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q					
専門基礎科目	○	微積分ⅠB	2			2	2																	
	○	微積分Ⅱ	2			2	2																	
	○	線形代数Ⅱ	2			2	2																	
		くらしの中の電気	2			2	2																	
		基礎電磁気学	2			2	2																	
		電気電子材料	2			2	2																	
		通信工学概論	2			2	2																	
	○	電気回路Ⅰ	2					2	2															
	○	電気磁気学Ⅰ	2					2	2															
	○	電気電子数学Ⅰ	2					2	2															
		微分方程式(電気)	2					2	2															
		放電物理	1					1	1															
		電子デバイス	2					2	2															
		情報理論(電気)	2					2	2															
		プログラミング演習	1					4																
		デジタルテクノロジー演習	1					4																
	○	電気回路Ⅱ	2							2	2													
	○	電気磁気学Ⅱ	2							2	2													
	○	電気電子数学Ⅱ	2							2	2													
	○	電気電子工学演習Ⅰ	1							2	2													
	○	電気電子工学実験Ⅰ	2							4	4													
		関数論	2							2	2													
		過渡現象	2							2	2													
		電子物性	2							2	2													
		アナログ電子回路	2							2	2													
		デジタル電子回路	2							2	2													
		小計	48			14	14	17	17	22	22													
	専門教育科目	○	電気電子工学演習Ⅱ	1							2	2												
○		電気電子工学実験Ⅱ	2							4	4													
○		キャリアデザイン	2							2	2	2	2											
		電気機器Ⅰ	2							2	2													
		発変電工学	2							2	2													
		電気電子計測	2							2	2													
		制御工学	2							2	2													
		半導体工学	2							2	2													
		パワーエレクトロニクス	2							2	2													
		アナログ通信	2							2	2													
		インターンシップ(電気)	1									2												集中講義
○		電気電子工学実験Ⅲ	2									4	4											
		高電圧工学	2									2	2											
		プラズマエレクトロニクス	1									1	1											
		電気機器Ⅱ	2									4												
		送配電工学	2									2	2											
		デジタル通信	2									2	2											
		電磁波工学	1									2												
		無線工学	1											2										
		生体医工学	1											2										
		電気機器設計製図	2											4										
		電気法規及び施設管理	2									2	2											
		電波及び通信法規	2									2	2											
		知的財産権	2											2	2									
		工場管理	2													2	2							
		企業倫理	2													2	2							
		産業経済論	2													2	2							
○		卒業研究	6																					
	小計	54									24	22	23	25	2	2	6	6						
	総計	102			14	14	17	17	22	22	24	22	23	25	2	2	6	6						

卒業研究履修要件

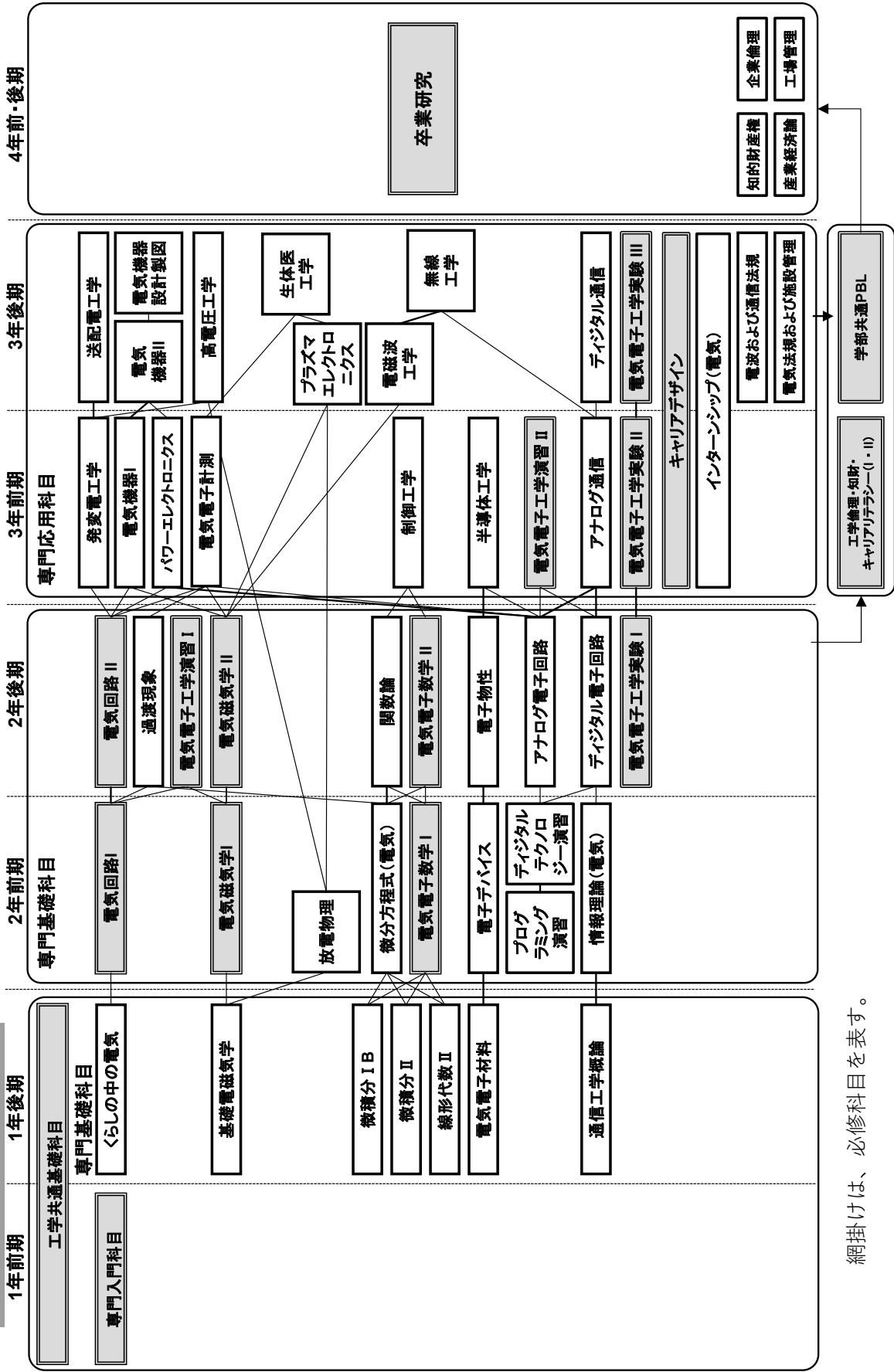
【共通教育科目】

- 基盤科目…………… 必修11単位を含む11単位
- 未来思考支援科目…… 必修2単位を含む2単位
- 教養科目…………… 10単位以上。ただし、愛大スタンダード科目3単位を含むこと。

【専門教育科目】

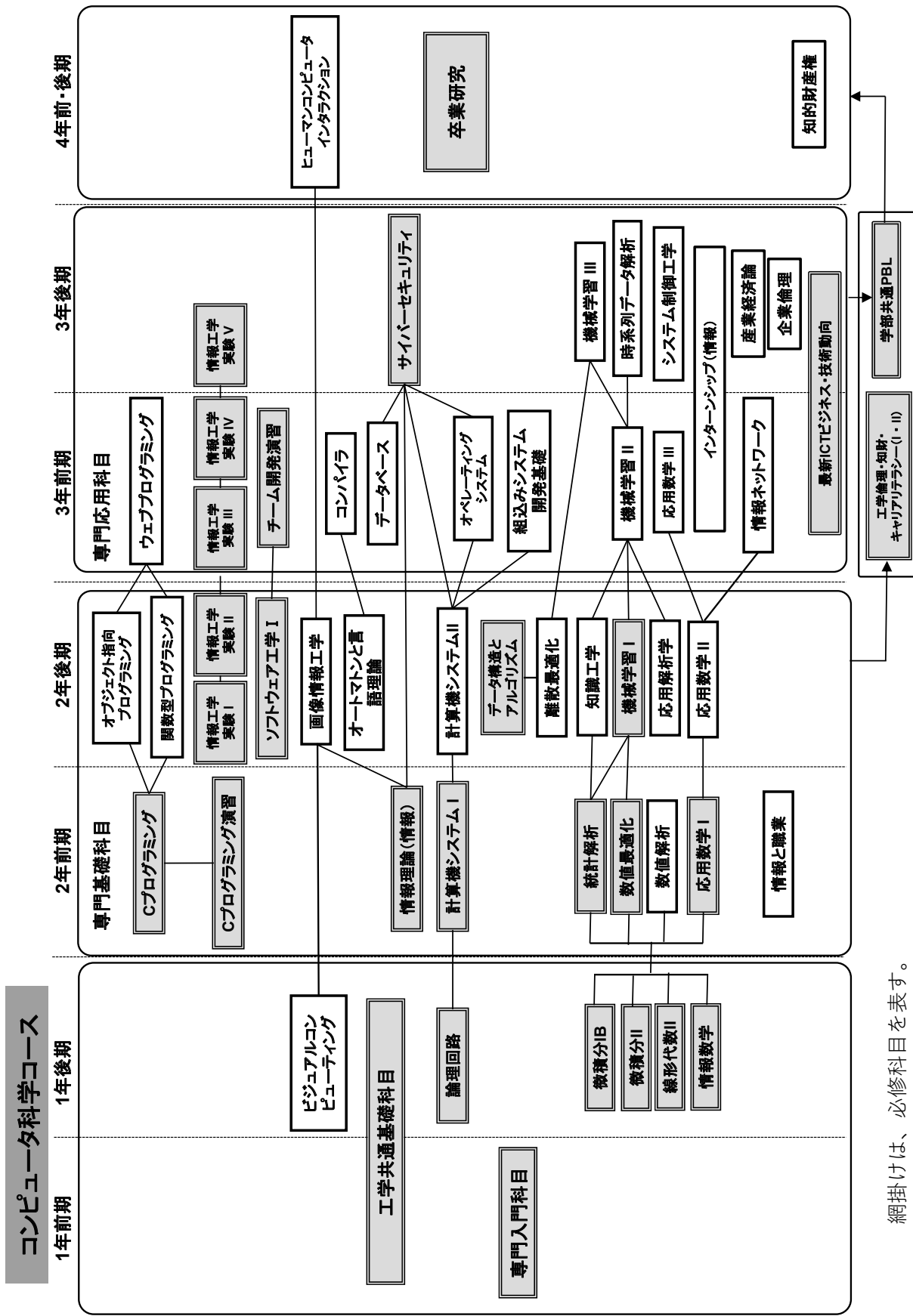
- 工学共通基礎科目…… 必修15単位を含む15単位
- 専門入門科目…………… 必修6単位含む6単位以上
- 専門科目(専門基礎科目、専門応用科目)…… 「卒業研究」以外の必修科目すべてを含む61単位以上

電気電子工学コース



網掛けは、必修科目を表す。

- 1 主要スケジュール
- 2 愛大生コンピテンシー
- 3 学部の教育理念と教育方針
- 4 大学で学ぶ基本知識
- 5 単位制度
- 6 履修登録単位数の上限
- 7 履修コースの決定
- 8 教育目標・教育課程表履修方法科目目ナシ(ハンドブック)
- 9 履修登録手続き等
- 10 他教育コース・他学部授業科目履修
- 11 単位互換科目・他
- 12 受講上の注意事項
- 13 試験・成績
- 14 卒業見込・卒業研究履修要件
- 15 卒業認定・早期卒業
- 16 転学部
- 17 学びのサポート
- 18 教育職員免許状
- 19 その他の資格について
- 20 学内諸規程



網掛けは、必修科目を表す。

- 1 主要スケジュール
- 2 愛大生コンピニョン
- 3 学部の教育理念と教育方針
- 4 大学で学ぶ基本知識
- 5 単位制度
- 6 履修登録単位数の上限
- 7 履修コースの決定
- 8 教育目標
教育課程表履修方法科目目録
ハンブルグ
- 9 履修登録
手続き等
- 10 他教育
一入・他学部
授業科目履修
- 11 単位互換科目・他
- 12 受講上の
注意事項
- 13 試験・成績
- 14 卒業見
込・卒業研
究履修要件
- 15 卒業認定・
早期卒業
- 16 転学部
- 17 学びの
サポート
- 18 教育職員
免許状
- 19 その他の資
格について
- 20 学内諸規程

応用情報工学コース

分類	必修	科目名	単位数	週授業時数																備考		
				1年				2年				3年				4年						
				前		後		前		後		前		後		前		後				
				1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q			
専門基礎科目	○	微積分ⅠB	2			2	2															
	○	微積分Ⅱ	2			2	2															
	○	線形代数Ⅱ	2			2	2															
	○	情報数学	2			2	2															
		ビジュアルコンピューティング	2			2	2															
	○	Cプログラミング演習	1					2	2													
		応用数学Ⅰ	2					2	2													
	○	Cプログラミング	2					2	2													
	○	論理回路	2			2	2															
	○	計算機システムⅠ	2					2	2													
		情報と職業	2					2	2													
	○	情報理論(情報)	2					2	2													
		統計解析	2					2	2													
	○	知的グループワーク演習	1							2												集中講義
	○	データ構造とアルゴリズム	2							2	2											
		オートマトンと言語理論	2							2	2											
		オブジェクト指向プログラミング	2							2	2											
	○	ソフトウェア工学Ⅰ	2							2	2											
		応用数学Ⅱ	2							2	2											
	○	計算機システムⅡ	2							2	2											
		知識工学	2							2	2											
		機械学習Ⅰ	2							2	2											
		離散最適化	2							2	2											
		応用解析学	2							2	2											
○	デザイン思考	1									2										集中講義	
	情報工学実験Ⅱ	1										4										
	小計	48			12	12	16	14	22	24												
専門応用科目	○	プロジェクトマネジメント	1							2												
	○	ウェブプログラミング	2							2	2											
	○	オペレーティングシステム	2							2	2											
	○	データベース	2							2	2											
	○	チーム開発演習	1							2	2											
		応用数学Ⅲ	2							2	2											
		機械学習Ⅱ	2							2	2											
		コンパイラ	2							2	2											
		組込みシステム開発基礎	2							2	2											
		情報ネットワーク	2							2	2											
		技術マネジメント	1									2										
		インターンシップ(情報)	1										2									集中講義
	○	最新ICTビジネス・技術動向	2										4									集中講義
	○	ソフトウェア工学Ⅱ	1									2										
		機械学習Ⅲ	2									2	2									
	○	サイバーセキュリティ	2									2	2									
		時系列データ解析	2									2	2									
		産業経済論	2									2	2									
		企業倫理	2									2	2									
		知的財産権	2											2	2							
	○	卒業研究	6													2	2					
		小計	41									28	20	10	10	2	2					
		総計	89			12	12	16	14	22	24	28	20	10	10	2	2					

卒業研究履修要件

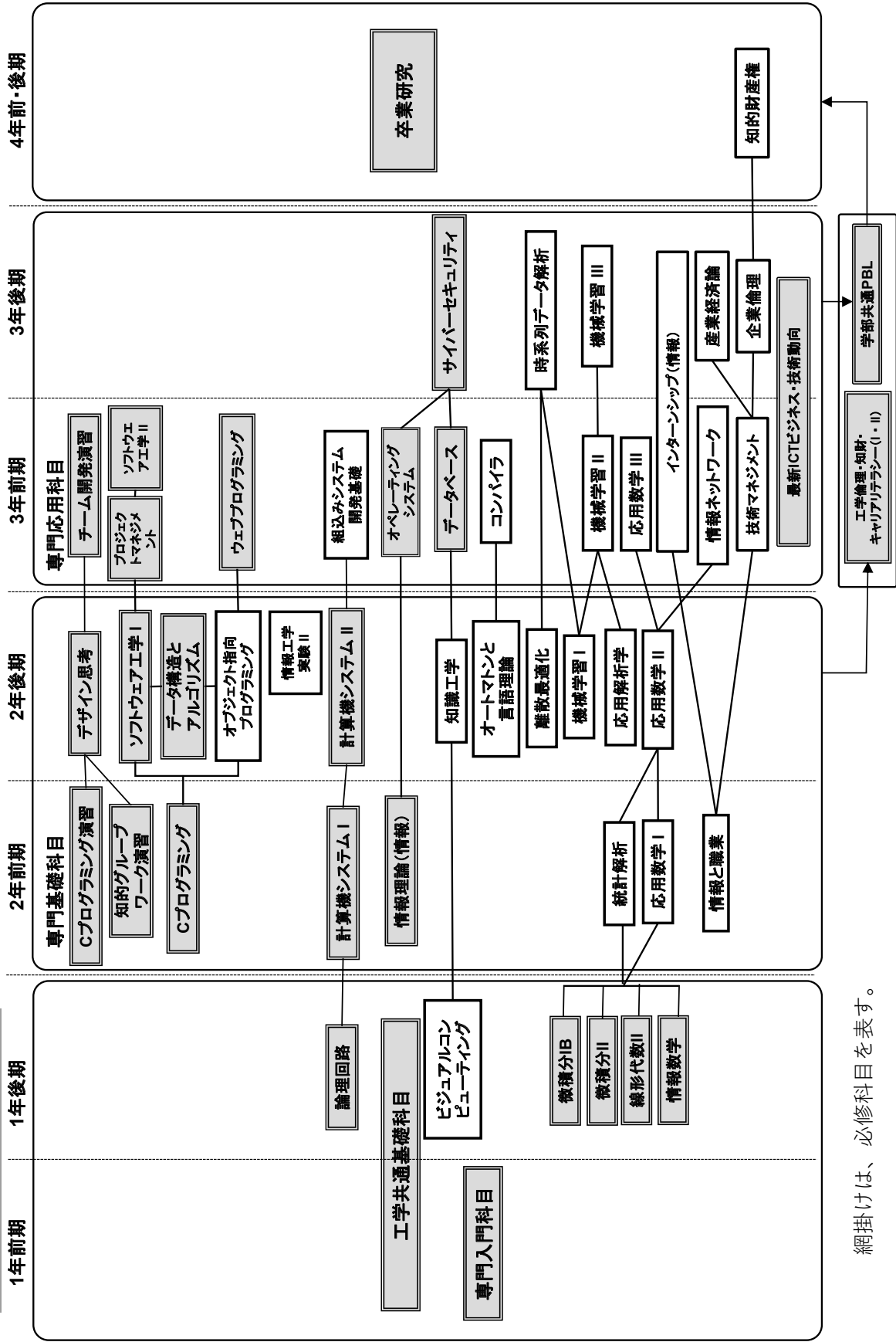
【共通教育科目】

- 基盤科目…………… 必修11単位を含む11単位
- 未来思考支援科目… 必修2単位を含む2単位
- 教養科目…………… 10単位以上。ただし、愛大スタンダード科目3単位を含むこと。

【専門教育科目】

- 工学共通基礎科目… 必修15単位を含む15単位
- 専門入門科目… 必修6単位含む6単位以上
- 専門科目(専門基礎科目、専門応用科目)… 「卒業研究」以外の必修科目すべてを含む67単位以上

応用情報工学コース



網掛けは、必修科目を表す。

- 1 主要スケジュール
- 2 愛大生コンピテンシー
- 3 学部の教育理念と教育方針
- 4 大学で学ぶ基本知識
- 5 単位制度
- 6 履修登録単位数の上限
- 7 履修コースの決定
- 8 教育目標・教育課程表履修方法科目目ナシ
- 9 履修登録手続き等
- 10 他教育コース・他学部授業科目履修
- 11 単位互換科目・他
- 12 受講上の注意事項
- 13 試験・成績
- 14 卒業見込・卒業研究履修要件
- 15 卒業認定・早期卒業
- 16 転学部
- 17 学びのサポート
- 18 教育職員免許状
- 19 その他の資格について
- 20 学内諸規程

材料デザイン工学コース

分類	必修	科目名	単位数	週授業時数																備考					
				1年				2年				3年				4年									
				前		後		前		後		前		後		前		後							
				1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q						
専門基礎科目		微積分ⅠB	2			2	2																		
		微積分Ⅱ	2			2	2																		
		線形代数Ⅱ	2			2	2																		
	○	材料工学実験Ⅰ	1			4																	3Qまたは4Q		
	○	金属組織学Ⅰ	2			2	2																		
	○	熱力学	2			2	2																		
	○	材料化学	2			2	2																		
		力学	2			2	2																		
		環境・エネルギー工学	2			2	2																		
	○	材料工学実験Ⅱ	1					4																1Qまたは2Q	
	○	材料物理化学	2					2	2																
	○	電磁気学	2					2	2																
		金属組織学Ⅱ	2					2	2																
		材料力学	2					2	2																
		振動・波動	2					2	2																
		化学反応動力学	2					2	2																
		微分方程式 (材料)	2					2	2																
		電磁気学演習	1					4																集中講義	
	○	材料工学実験Ⅲ	1							4														3Qまたは4Q	
	○	機器分析概論	2						2	2															
		材料科学技術英語	2						2	2															
		材料強度学	2						2	2															
		基礎電気回路	2						2	2															
		小計	42			20	16	22	14	12	8														
	専門応用科目		固体物性工学	2						2	2														
			高温プロセス工学	1						2															
			表面工学	1						2															
		○	材料工学実験Ⅳ	1								4													1Qまたは2Q
		金属材料学	2							2	2														
		結晶回折学	2							2	2														
		セラミックス材料工学	2							2	2														
		鉄鋼・非鉄製錬工学	1							2															
		金属接合工学	1							2															
		誘電体材料工学	1							2															
		触媒材料工学	1							2															
		CAD	1							4															
		機能材料特別講義	1						1	1															
		材料プロセス学	1							2															
		光材料工学	1							2															
		半導体材料工学	1							2															
		磁性材料工学	1							2															
		電池材料学	1							2															
		材料工学実験Ⅴ	2								4	4													
		工場管理	2								2	2													
		産業経済論	2								2	2													
		企業倫理	2								2	2													
		キャリア形成セミナー (材料)	1									2													
		知的財産権	2										2	2											
		インターンシップ (材料)	1								2														集中講義
○		研究プレゼンテーション	2																						
○		研究セミナー	2																						
○		卒業研究	6																						
	小計	44					6	2	25	17	10	12	2	2											
	総計	86			20	16	22	14	18	10	25	17	10	12	2	2									

卒業研究履修要件

【共通教育科目】

- 基盤科目…………… 必修11単位を含む11単位
- 未来思考支援科目…………… 必修2単位を含む2単位
- 教養科目…………… 10単位以上。ただし、愛大スタンダード科目3単位を含むこと。

【専門教育科目】

- 工学共通基礎科目…………… 必修15単位を含む15単位
- 専門入門科目…………… 必修6単位含む6単位以上
- 専門科目 (専門基礎科目、専門応用科目) …… 「研究プレゼンテーション」「研究セミナー」「卒業研究」以外の必修科目16単位を含む58単位以上

化学・生命科学コース

分類	必修 ○ 選択 ○	科目名	単位数	週授業時数																備考				
				1年				2年				3年				4年								
				前		後		前		後		前		後		前		後						
				1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q					
専門教育科目	専門基礎科目	線形代数Ⅱ	2			2	2																	
		基礎有機化学	2			2	2																	
		有機工業化学	2			2	2																	
		プロテオサイエンス入門	2			2	2																	
		◎ 応用化学実験Ⅰ	2					6	6															
		化学技術英語Ⅰ	2					2	2															
		基礎生物学	2					2	2															
		○ 物理化学Ⅰ	2			2	2																	
		○ 分析化学Ⅰ	1					2																
		○ 無機化学	2					2	2															
		○ 有機化学Ⅰ	2					2	2															
		○ 生化学Ⅰ	1			2																		
		○ 生化学Ⅱ	1					2																
		◎ 応用化学実験Ⅱ	4							8	8													
		○ 分析化学Ⅱ	1							2														
		化学技術英語Ⅱ	2							2	2													
		高分子化学Ⅰ	2					2	2															
		物理化学Ⅱ	1							2														
		基礎化学工学	2							2	2													
		有機化学Ⅱ	2							2	2													
		分子生物学	2					2	2															
		錯体化学	2							2	2													
		高分子化学Ⅱ	2							2	2													
		遺伝子工学	1								2													
	生物情報科学	2								2	2													
	キャリア形成セミナー(化学)	1								2														
	小計	47			12	10	22	20	22	24														
	専門応用科目	化学・生命科学概論	2							2	2													
化学工学		2							2	2														
分子細胞生物学		1								2														
有機化学Ⅲ		2							2	2														
量子化学		2							2	2														
インターンシップ(化学)		1									2										集中講義			
◎ 応用化学実験Ⅲ		4							8	8														
固体化学		1							2															
電気化学		1								2														
機器分析		2							2	2														
生物工学		1										2												
環境化学		1										2												
◎ 化学・生命科学演習		4										8	8											
高分子化学Ⅲ		2							2	2														
有機化学Ⅳ	2									2	2													
微生物学	2							2	2															
地学Ⅱ	2										2	2									教育職員免許状取得希望者のみ履修可			
◎ 研究講読	2																							
◎ 卒業研究	6																							
小計	40									26	26	16	12											
総計	87			12	10	22	20	22	24	26	26	16	12											

卒業研究履修要件

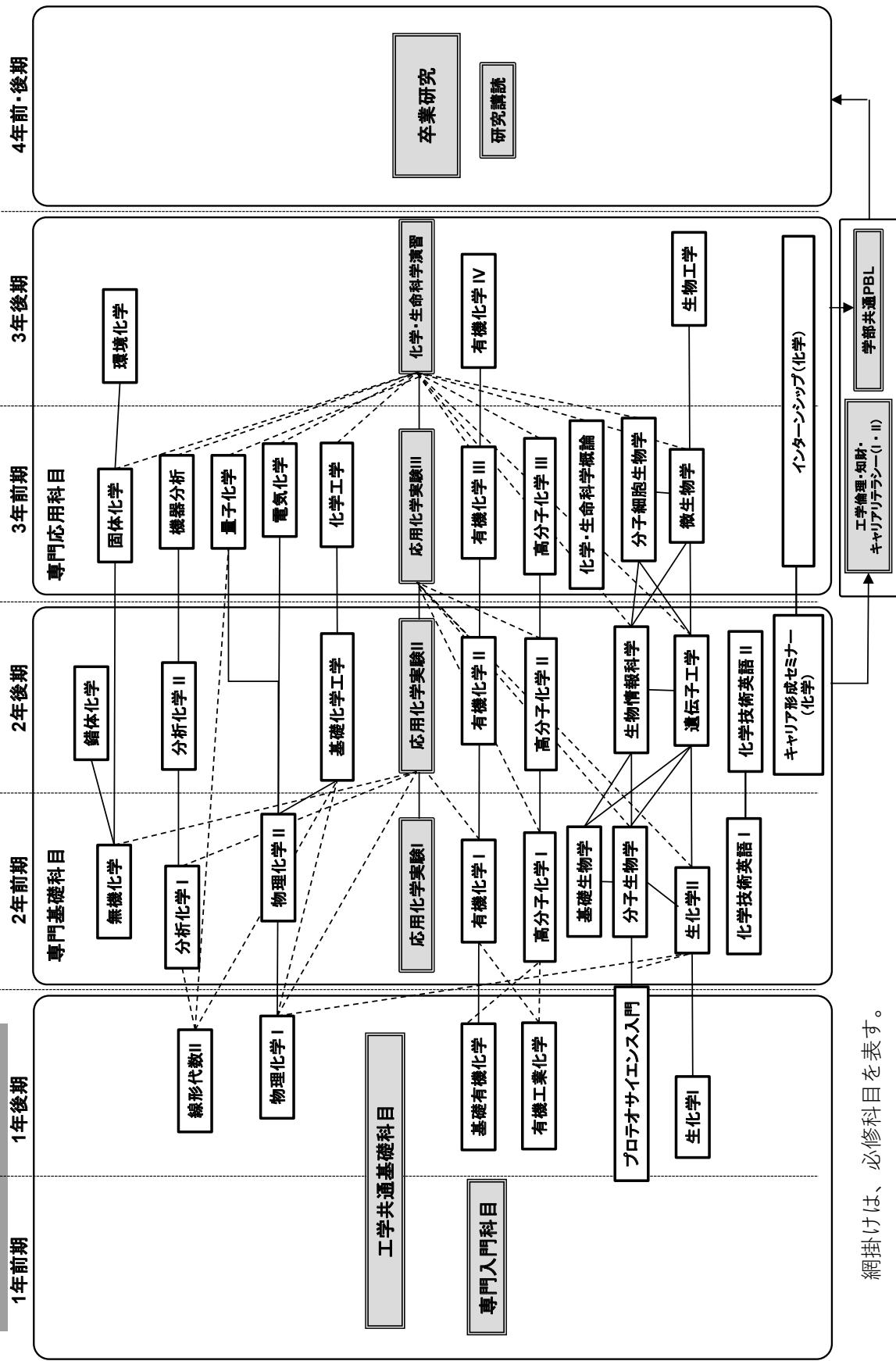
【共通教育科目】

- 基盤科目…………… 必修11単位を含む11単位
- 未来思考支援科目…………… 必修2単位を含む2単位
- 教養科目…………… 10単位以上。ただし、愛大スタンダード科目3単位を含むこと。

【専門教育科目】

- 工学共通基礎科目…………… 必修15単位を含む15単位
- 専門入門科目…………… 必修6単位含む6単位以上
- 専門科目(専門基礎科目、専門応用科目)…………… 「研究講読」「卒業研究」以外の必修科目すべてと専門基礎科目の選択必修科目6単位を含む60単位以上。

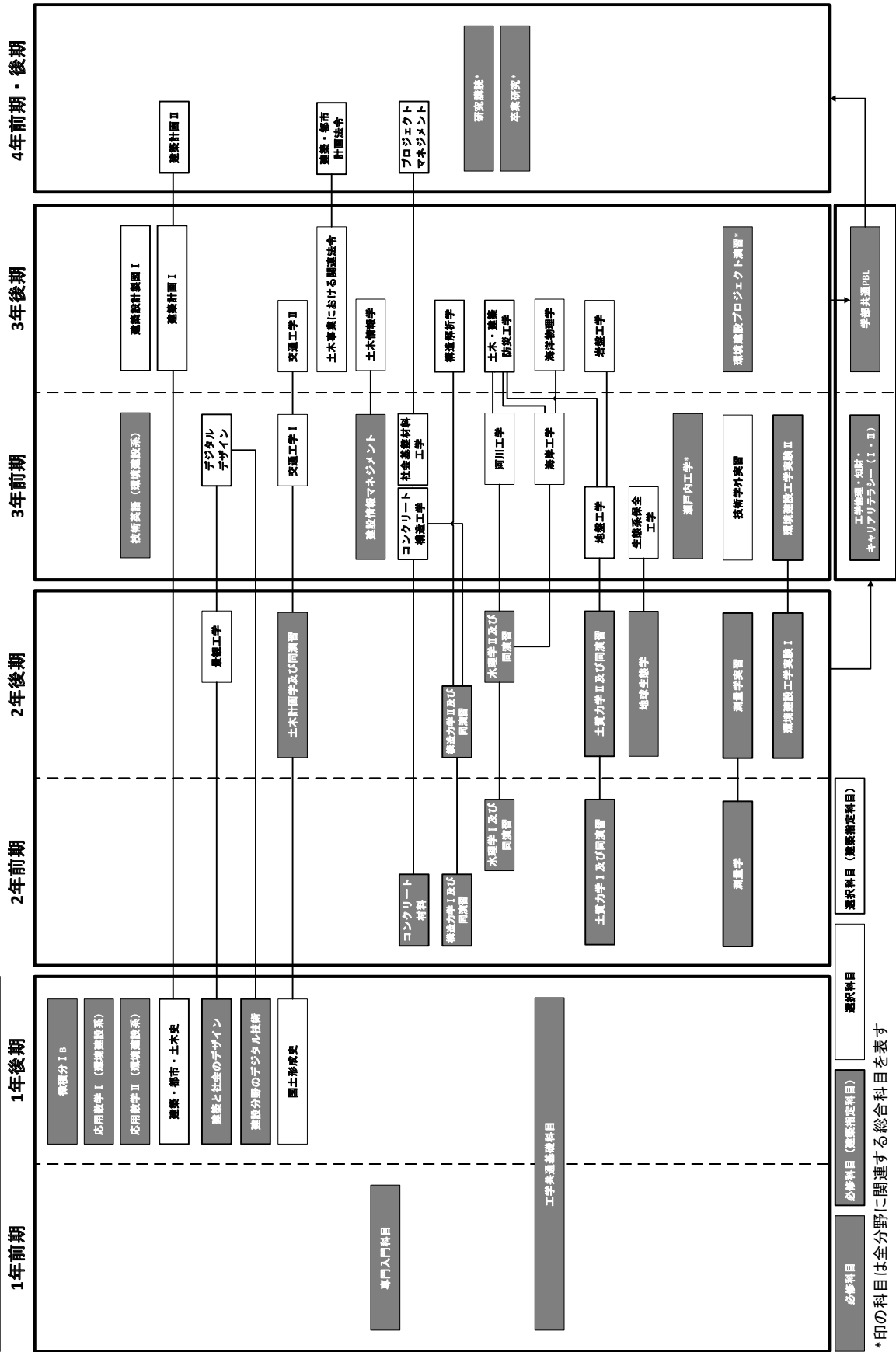
化学・生命科学コース



網掛けは、必修科目を表す。

- 1 主要スケジュール
- 2 愛大学生コンピテンシー
- 3 学部の教育理念と教育方針
- 4 大学で学ぶ基本知識
- 5 単位制度
- 6 履修登録単位数の上限
- 7 履修コースの決定
- 8 教育目標・教育課程表履修方法科目目ナシ
- 9 履修登録手続き等
- 10 他教育コース・他学部授業科目履修
- 11 単位互換科目・他大学科目
- 12 受講上の注意事項
- 13 試験成績
- 14 卒業見込・卒業要件
- 15 卒業認定・早期卒業
- 16 転学部
- 17 学びのサポート
- 18 教育職員免許状
- 19 その他の資格について
- 20 学内諸規程

社会基盤工学コース



*印の科目は全分野に関連する総合科目を表す

- 1 主要スケジュール
- 2 愛大学生コンピテンシー
- 3 学部の教育の理念と教育方針
- 4 大学の学びの基本知識
- 5 単位制度
- 6 履修登録単位数の上限
- 7 履修コースの決定
- 8 教育目標・教育課程表履修方法科目目ナ
- 9 履修登録手続き等
- 10 他教育コース・他学部
- 11 単位互換科目・他
- 12 受講上の注意事項
- 13 試験・成績
- 14 卒業見込・卒業研究
- 15 卒業認定・早期卒業
- 16 転学部
- 17 学びのサポート
- 18 教育職員免許状
- 19 その他の資格について
- 20 学内諸規程

建築・社会デザインコース

分類	必修 ○ 選択 ○	科目名	単位数	週授業時数												備考										
				1年				2年				3年					4年									
				前		後		前		後		前		後			前		後							
				1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q		1Q	2Q	3Q	4Q						
専門基礎科目	○	微積分ⅠB	2			2	2																			
	○	応用数学Ⅰ（環境建設系）	2			2	2																			
	○	応用数学Ⅱ（環境建設系）	2			2	2																			
	○	建築設計製図Ⅰ	3			6	6																			
	○	建築と社会のデザイン	2			2	2																			
	○	建設分野のデジタル技術	2			2	2																			
	○	建築・都市・土木史	2			2	2																			
		国土形成史	2			2	2																			
		建築設計製図Ⅱ	3					6	6																	
		建築計画Ⅰ	2					2	2																	
		建築構造	2					2	2																	
	○	土質力学Ⅰ及び同演習	3					3	3																	
		測量学	2					2	2																	
	○	コンクリート材料	2					4																		
		公共ガバナンス論	2					4																		
	○	構造力学Ⅰ及び同演習	3					6																		
	○	水理学Ⅰ及び同演習	3					6																		
		建築設計製図Ⅲ	3						6	6																
		建築計画Ⅱ	2						2	2																
	○	土木計画学及び同演習	3						3	3																
		土質力学Ⅱ及び同演習	3						3	3																
		地球生態学	2						2	2																
		測量学実習	1						3	3																
		社会心理学	2						4																	
		構造力学Ⅱ及び同演習	3						6																	
		建築構法	1						2																	
		建築材料	1							2																
		水理学Ⅱ及び同演習	3							6																
	小計	63			20	20	29	21	31	27																
専門応用科目		環境建設工学実験Ⅰ	2						4	4																
		景観工学	1							2																
		建築設計製図Ⅳ	3								6	6														
		建築環境工学	2							2	2															
		環境建設工学実験Ⅱ	2							4	4															
		技術英語（環境建設系）	2							2	2															
	○	四国学	2							2	2															
		生態系保全工学	1							2																
		コンクリート構造工学	1							2																
		地盤工学	1							2																
		住民参加と合意形成	2							4																
		技術学外実習	1								2													集中講義		
		社会基盤材料工学	1							2																
		デジタルデザイン	2							4																
		交通工学Ⅰ	1							2																
		建築設備デザイン	2								2	2														
		地域デザイン論	2								2	2														
	○	環境建設プロジェクト演習	3								3	3														
		土木事業における関連法令	2								2	2														
		景観デザイン	2								4															
		交通工学Ⅱ	1								2															
		構造解析学	1								2															
		土木・建築防災工学	1								2															
		建築・都市計画法令	1									2														
		プロジェクトマネジメント	2									2	2													
	○	研究講読	2																							
	○	卒業研究	6																							
		小計	49							4	6	28	24	19	9	4	2									
	総計	112			20	20	29	21	35	33	28	24	19	9	4	2										

卒業研究履修要件

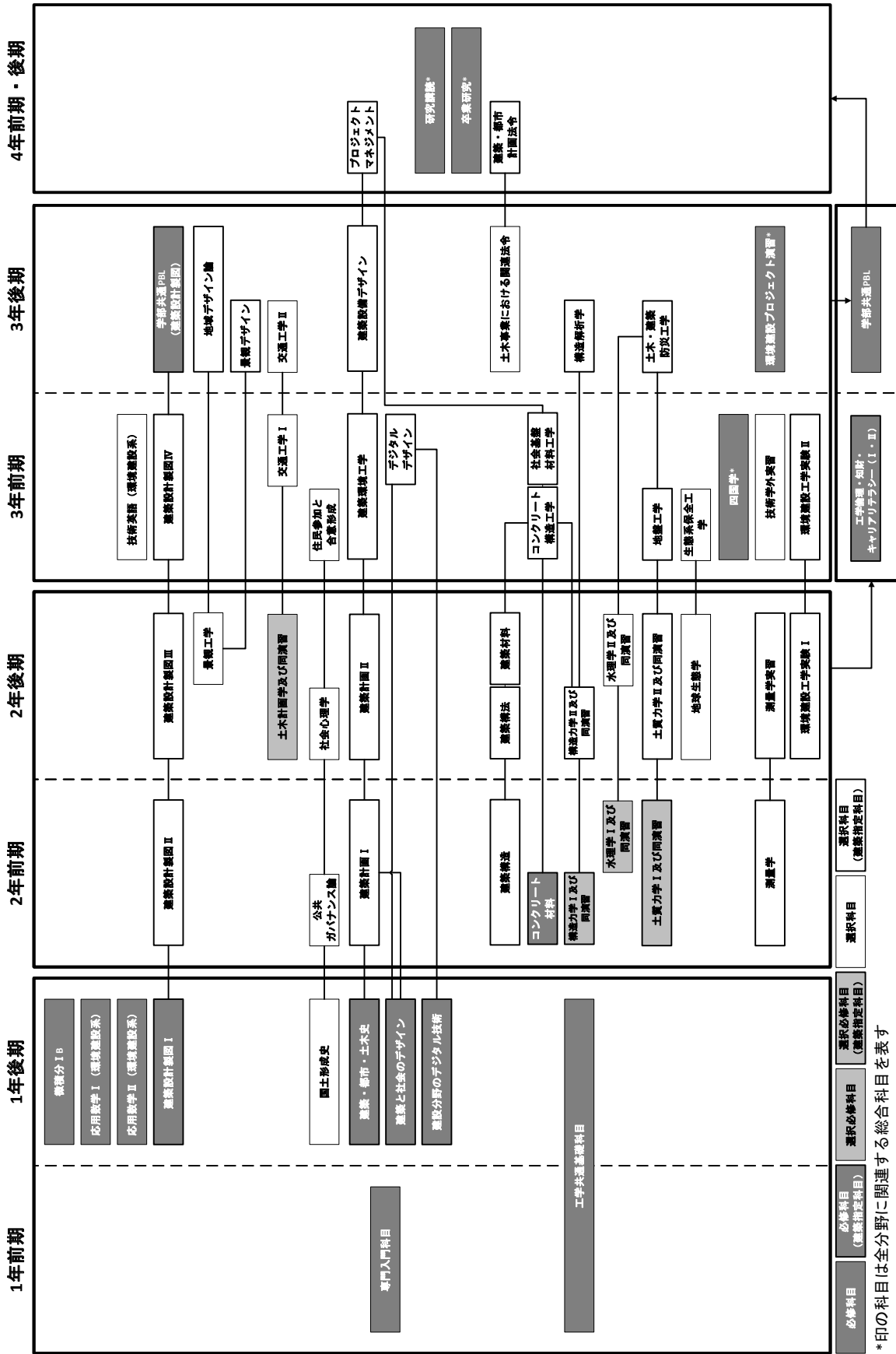
【共通教育科目】

- 基盤科目…………… 必修11単位を含む11単位
- 未来思考支援科目… 必修2単位を含む2単位
- 教養科目…………… 10単位以上。ただし、愛大スタンダード科目3単位を含むこと。

【専門教育科目】

- 工学共通基礎科目… 必修15単位を含む15単位
- 専門入門科目… 必修6単位含む6単位以上
- 専門科目（専門基礎科目、専門応用科目）… 必修17単位及び選択必修6単位を含む65単位以上

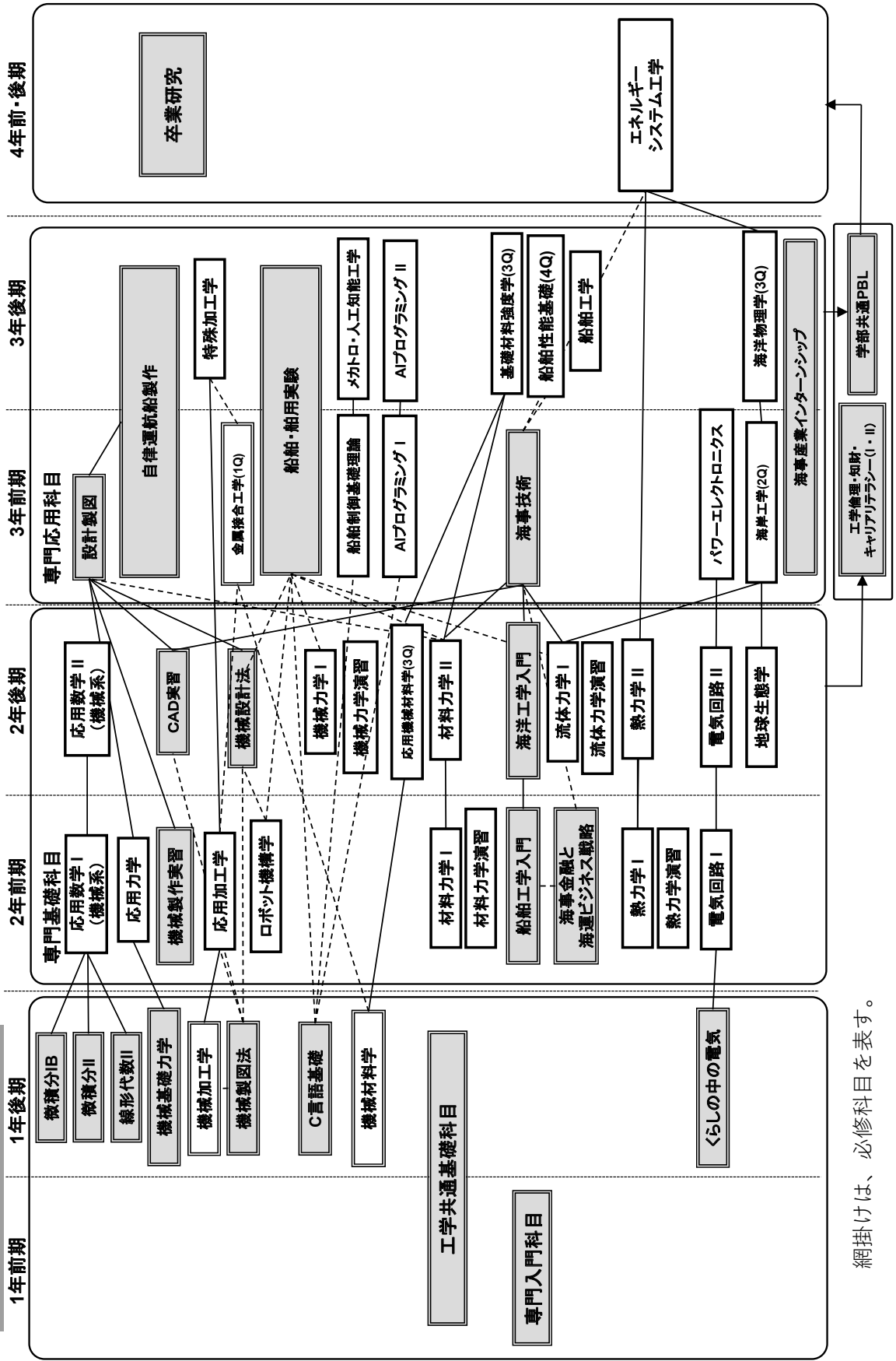
建築・社会デザインコース



*印の科目は全分野に関連する総合科目を表す

- 1 主要スケジュール
- 2 愛大学生コンピテンシー
- 3 学部の教育の理念と教育方針
- 4 大学の基本知識
- 5 単位制度
- 6 履修登録単位数の上限
- 7 履修コースの決定
- 8 教育目標・教育課程表履修方法科目ナンバリング
- 9 履修登録手続き等
- 10 他教育コース・他学部
- 11 単位互換科目・他大学科目
- 12 受講上の注意事項
- 13 試験・成績
- 14 卒業見込・卒業研究
- 15 卒業認定・早期卒業
- 16 転学部
- 17 学びのサポート
- 18 教育職員免許状
- 19 その他の資格について
- 20 学内諸規程

海事産業特別コース



網掛けは、必修科目を表す。

- 1 主要スケジュール
- 2 愛大生コンピテンシー
- 3 学部の教育理念と教育方針
- 4 大学の基本知識
- 5 単位制度
- 6 履修登録単位数の上限
- 7 履修コースの決定
- 8 教育目標・教育課程表履修方法・科目目録
- 9 履修登録手続き等
- 10 他教育コース・他学部授業科目履修
- 11 単位互換科目・他
- 12 受講上の注意事項
- 13 試験・成績
- 14 卒業見込・卒業研究要件
- 15 卒業認定・早期卒業
- 16 転学部
- 17 学びのサポート
- 18 教育職員免許状
- 19 その他の資格について
- 20 学内諸規程

デジタル情報人材育成特別プログラム

分類	必修 ○ 選択 ○ 必修 ○	科目名	単位数	週授業時数																備考					
				1年				2年				3年				4年									
				前		後		前		後		前		後		前		後							
				1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q						
専門基礎科目	○	微積分ⅠB	2			2	2																		
	○	微積分Ⅱ	2			2	2																		
	○	線形代数Ⅱ	2			2	2																		
	○	情報数学	2			2	2																		
	○	デジタル情報人材育成入門	1			2																			
	○	ビジュアルコンピューティング	2			2	2																		
	○	Cプログラミング演習	1					2	2																
	○	応用数学Ⅰ	2					2	2																
	○	Cプログラミング	2					2	2																
	○	論理回路	2			2	2																		
	○	計算機システムⅠ	2					2	2																
	○	情報理論(情報)	2					2	2																
	○	数値最適化	2					2	2																
	○	数値解析	2					2	2																
	○	統計解析	2					2	2																
	○	情報と職業	2					2	2																
	○	デジタル情報人材育成実践	1						2																
	○	ソフトウェア工学Ⅰ	2						2	2															
	○	データ構造とアルゴリズム	2						2	2															
	○	機械学習Ⅰ	2						2	2															
	○	計算機システムⅡ	2						2	2															
	○	情報工学実験Ⅰ	1						4																
	○	情報工学実験Ⅱ	1							4															
	○	オブジェクト指向プログラミング	2						2	2															
	○	応用数学Ⅱ	2						2	2															
	○	知識工学	2						2	2															
	○	離散最適化	2						2	2															
	○	オートマトンと言語理論	2						2	2															
	○	応用解析学	2						2	2															
	○	関数型プログラミング	2						2	2															
○	画像情報工学	2						2	2																
		小計	57			14	12	18	20	28	28														
専門応用科目	○	プロジェクトマネジメント	1							2															
	○	情報工学実験Ⅲ	1							4															
	○	ウェブプログラミング	2							2	2														
	○	オペレーティングシステム	2							2	2														
	○	データベース	2							2	2														
	○	チーム開発演習	1							2	2														
	○	応用数学Ⅲ	2							2	2														
	○	機械学習Ⅱ	2							2	2														
	○	コンパイラ	2							2	2														
	○	組み込みシステム開発基礎	2							2	2														
	○	情報ネットワーク	2							2	2														
	○	技術マネジメント	1							2															
	○	インターンシップ(情報)	1								2													集中講義	
	○	最新ICTビジネス・技術動向	2								4													集中講義	
	○	ソフトウェア工学Ⅱ	1							2															
	○	情報工学実験Ⅳ	1							4															
	○	情報工学実験Ⅴ	1								4														
	○	システム制御工学	2								2	2													
	○	機械学習Ⅲ	2								2	2													
	○	サイバーセキュリティ	2								2	2													
	○	時系列データ解析	2								2	2													
	○	産業経済論	2								2	2													
	○	企業倫理	2								2	2													
	○	知的財産権	2									2	2												
	○	ヒューマンコンピュータインタラクション	2									2	2												
	○	卒業研究	6																						
		小計	48							32	24	16	12	4	4										
		総計	105			14	12	18	20	28	28	32	24	16	12	4	4								

卒業研究履修要件

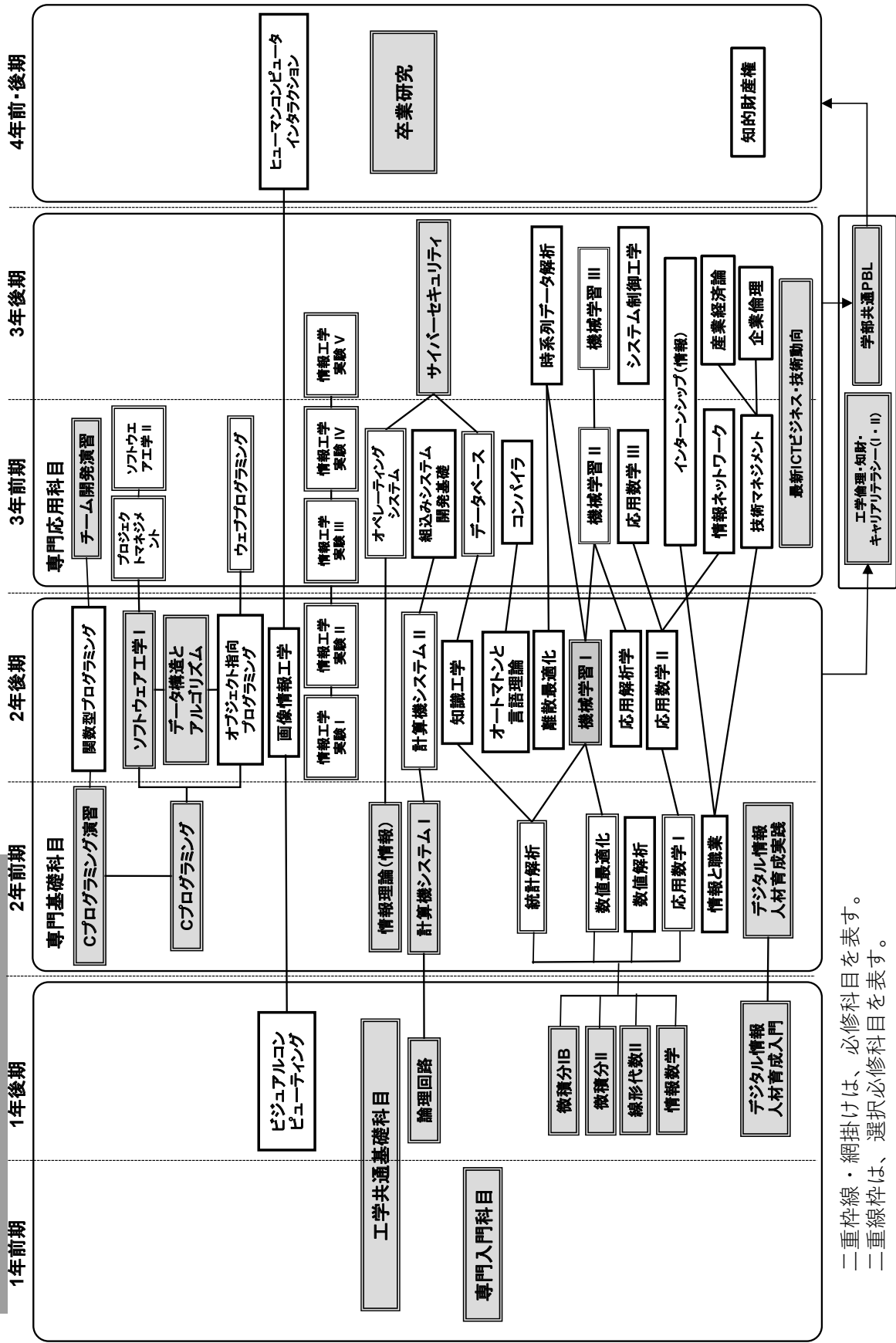
【共通教育科目】

- 基盤科目…………… 必修11単位を含む11単位
- 未来思考支援科目… 必修2単位を含む2単位
- 教養科目…………… 10単位以上。ただし、愛大スタンダード科目3単位を含むこと。

【専門教育科目】

- 工学共通基礎科目… 必修15単位を含む15単位
- 専門入門科目…… 必修6単位含む6単位以上
- 専門科目(専門基礎科目、専門応用科目)…… 「卒業研究」以外の必修科目すべてを含む67単位以上。ただし、専門基礎科目の選択必修5単位、専門応用科目の選択必修6単位を含むこと。

デジタル情報人材育成特別プログラム



二重枠線・網掛けは、必修科目を表す。
二重線枠は、選択必修科目を表す。

- 1 主要スケジュール
- 2 愛大生コンピテンシー
- 3 学部の教育理念と教育方針
- 4 大学で学ぶ基本知識
- 5 単位制度
- 6 履修登録単位数の上限
- 7 履修コースの決定
- 8 教育目標・教育課程表履修方法科目目ナシ
- 9 履修登録手続き等
- 10 他教育科目・他学部授業科目履修
- 11 単位互換科目・他大学科目
- 12 受講上の注意事項
- 13 試験・成績
- 14 卒業見込・卒業研究履修要件
- 15 卒業認定・早期卒業
- 16 転学部
- 17 学びのサポート
- 18 教育職員免許状
- 19 その他の資格について
- 20 学内諸規程

(3) 履修方法

専門教育科目は、「工学共通基礎科目」、「専門入門科目」、「専門基礎科目」、「専門応用科目」に区分されています。

工学共通基礎科目・専門入門科目

1年次開講の工学共通基礎科目は受講クラス別に授業が開講されますので、該当する受講クラスの授業の履修登録を行ってください。

専門基礎科目・専門応用科目

1年次後学期以降に配当されている専門基礎科目及び専門応用科目を履修するためには、原則として当該教育コースに所属していることが必要です。所属する教育コース等の授業科目以外の授業科目の履修を希望する場合は、「10. 他教育コース・他学部授業科目履修」を確認してください。なお、教育コースへの配属を保留されている場合の1年次後学期専門基礎科目の履修については、1年次の学生生活担当教員及び履修希望科目を開講する教育コース長に相談してください。

8-3 科目ナンバリング

大学で開講している授業の水準や授業内容などを授業科目毎に特定の記号や数字を付与し、カリキュラムの体系性（科目群の構成や科目間の順次性）をわかりやすく示したものです。学生のみなさんにとっては、科目ナンバリングを教育課程表やシラバスで確認することで、授業の登録や履修を主体的かつ計画的に進めるための一助となります。

(例1) 共通教育基盤科目「こころと健康」 GnE1G-0BAS-002

GnE + 1 + G - 0 + BAS - 002
 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥

(例2) 工学部工学科専門教育科目「構造力学Ⅰ及び同演習」 EnG2C-7CVE-704

EnG + 2 + C - 7 + CVE - 704
 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥

①開講学部学科

コード	名称
GnE	共通教育
EnG	工学部工学科

②学年レベル

コード	年次
1	1
2	2
3	3
4	4

③科目区分

共通教育科目		専門教育科目	
コード	名称	コード	名称
G	基盤科目	A	工学共通基礎科目
F	未来思考支援科目	B	専門入門科目
C	教養科目	C	専門基礎科目
D	発展科目	D	専門応用科目
E	留学生対象科目		

④分野大分類

コード	名称
7	工学
0	その他

⑤科目分類

共通教育科目		専門教育科目	
コード	名称	コード	名称
基盤科目		PHY	物理学
ENG	英語 (科目群)	CHB	基礎化学
MTH	数学 (科目群)	INE	総合工学
BAS	その他	MCH	機械工学
未来思考支援科目		EEL	電気電子工学
FTS	未来思考支援科目	INF	情報学基礎
教養科目		MTE	材料工学
STD	愛大スタンダード科目	CHA	複合化学
PRI	愛大プライム科目	CVE	土木工学
SEM	課題発見基礎セミナー	CMP	計算基盤
ALI	大学間連携科目	MTH	数学
FRL	初修外国語	CHE	化学工学
TCH	教員免許に関する科目	CHM	材料科学
発展科目		MLB	生体分子化学
XTN	発展科目	BBL	基礎生物学
留学生対象科目		BLS	生物化学
INS	留学生対象科目	ARC	建築学
		ENG	英語
		DSS	卒業研究

⑥科目番号

科目ごとに付番する。

1 主要スケジュール

2 愛大生コンピテンシー

3 教育学部と教育方針

4 大学で学ぶ基本知識

5 単位制度

6 履修登録単位数の上限

7 履修コースの決定

8 教育課程履修方法科目ナンバリング

9 履修登録手続き等

10 他学部授業科目履修

11 単位互換科目・他

12 受講上の注意事項

13 試験成績

14 卒業見込・卒業要件

15 卒業認定・早期卒業

16 転学部

17 学部のサポート

18 教育職員免許状

19 その他の資格について

20 学内諸規程

9 履修登録手続き等

授業科目を履修するためには、履修しようとする授業科目を登録しなければなりません。履修登録は、各自が修学支援システムから行います。

9-1 履修登録の時期

履修登録は、各学期の履修登録日程に沿って行ってください。詳しい日程は、こちらから確認できます。

🔗 履修登録日程（大学ホームページ）



🔗 履修登録日程（修学支援システムポータルサイト）



9-2 履修登録の手順

① 履修登録に必要なものを確認します。

- 愛媛大学アカウント及びパスワード
- 履修の手引
- 時間割表
- その他の履修登録関連資料

- ・ 共通教育科目：修学支援システム履修登録画面の上部に掲載
- ・ 専門教育科目：修学支援システム履修登録画面の上部および工学部ホームページに掲載
- ・ 読替え表：工学部ホームページに掲載

入学時に受け取った履修の手引にある科目表から、履修しようとする授業科目名が変更している場合があります。そのような科目を「読替え科目」といいます。「旧科目名」と「新科目名」の対応表である「読替え表」は工学部ホームページから確認することができます。読替え表の中で、「特別指導」となっている授業科目については、学務チームに問い合わせてください。

② 教育課程表（P10、P19～41）で、各学期に履修すべき授業科目や単位数をよく確認します。

③ 時間割表とシラバスを確認し、履修する科目を決定します。（シラバスについてはP45参照）

🔗 【共通教育科目時間割表】



🔗 【専門教育科目時間割表】



- 専門教育科目の時間割表は、各学期始め（4月、9月）に工学部ホームページへ掲載します。
- 時間割番号、授業科目名、開講曜日、時限、担当教員名、教室が示されています。自分の受けようとする授業科目が開講されているか、曜日・時限が重複していないかを確認してください。なお、授業時間割発表後、授業時間及び教室が変更される場合がありますので、常にホームページで確認してください。

※時間割表では、学生証番号の中の「個人番号」を用いてクラス分けを示す場合があります。学生証番号の見方については以下を確認してください。

学生証番号

学生証番号とは学生個人を表す番号で、学生証に8桁で表されています。出席カード、レポート、試験の答案など、重要な書類の提出の際に必要なとなりますので、学生証は常に携行し、学生証番号も間違いのないように記憶しておいてください。

学生証番号の構成（工学部工学科1番の学生の場合）

入学年度 (西暦下1桁)	学部コード (1桁)	学科・課程コード (2桁)	個人番号 (3桁)	チェックデジット (アルファベット1字)
6	5	20	001	A

学部、学科・課程コード表

学部	学部コード	学科・課程	学科・課程コード
工学部	5	工学科	20

④修学支援システムにアクセスし、選択した科目を登録します。

☑ 修学支援システム

※抽選対象科目については、定員を超過した場合、修学支援システムの抽選機能を用いて抽選が行われます。必ず抽選結果を確認し、抽選漏れした場合は履修登録修正期間中に他の授業科目を登録してください。

※修学支援システム利用のてびきには、修学支援システムで履修登録を行う際の操作方法も含め、詳しい手順が記載されていますので参考にしてください。

☑ 修学支援システム利用のてびき ※学内限定アクセス

なお、集中講義には、履修登録方法・履修登録期間を別途指定しているものがあります。これらの科目の履修を希望する場合は、学務チームや共通教育チームからの案内にしたがってください。



9-3 履修計画

(1) 学生生活担当教員

愛媛大学では、学年進行に伴う学習の進み具合を確認するため、半期に一度（入学時を除く）、学生生活担当教員と面談する機会を設けています。一貫性のない履修計画により学期途中で受講を中断したり、試験を放棄したりすることのないよう、履修制度や授業内容を理解した上で、履修計画に取り組みましょう。

(2) シラバス

シラバスとは、授業計画を表し、授業担当教員、授業の概要、各回の授業の計画等が記載されたものです。授業の到達目標や成績評価方法なども記載されており、履修の指針となる重要な資料であると言えます。シラバスは修学支援システムの「シラバス検索」メニューで閲覧することができますので、履修計画を立てる際に必ず確認してください。

☑ シラバス検索



1 主要スケジュール
2 愛媛大学生コンベンション
3 学部の理念と教育方針
4 大学で学ぶ基本知識
5 単位制度
6 履修登録単位数の上限
7 履修コースの決定
8 教育目標・修学課程表履修方法・科目ナンバリング
9 履修登録手続き等
10 他教育コース・他学部授業科目履修
11 単位互換科目・他
12 受講上の注意事項
13 試験成績
14 卒業見込・卒業研究履修要件
15 卒業認定・早期卒業
16 転学部
17 学部のサポート
18 教育職員免許状
19 その他の資格について
20 学内諸規程

9-4 履修モデル・カリキュラムマップ

(1) 共通教育履修モデル

共通教育では、所属学部の専門とは異なる分野からも授業を選択し、幅広い教養を身に付けることを推奨しています。履修計画を立てる際の参考にしてください。

☑ 共通教育履修モデル



(2) 専門教育科目カリキュラムマップ

専門教育では、各コース等のカリキュラムマップを作成しています。カリキュラムマップと科目表と照らし合わせることで、各科目の関係を確認できます。P19以降を参照してください。

9-5 履修登録科目の確認について

履修登録した授業科目が正確に登録されているか、履修登録の確認・修正期間中に必ず確認してください。履修登録が行われていない場合は、受講できないので注意してください。

9-6 履修登録科目の修正について

第2、第4クォーターの始めに履修登録修正期間が設定されるため、第2、第4クォーターの登録科目について修学支援システムから履修登録を修正することが可能です。(ただし、共通教育科目は取消のみ可能で追加はできません。)

なお、この期間外での授業科目の追加については、「履修登録科目追加願」による所定の手続きが必要です。手続きの詳細は学務チームに確認してください。(ただし、共通教育科目は原則として追加はできません。)

9-7 履修登録科目の取消について

病気・けがなどによって長期間履修できなくなり、それ以降の履修を取りやめる場合は、授業担当教員の承認を得た上で、「履修登録科目取消願」を学務チーム（共通教育科目は共通教育チーム）に提出し、取消の手続きを行ってください。ただし、既に欠席が開講回数の3分の1を超えている場合の取消は認められません。取り消さず、履修登録されたままの科目は成績評価の対象科目となり、GPAに算入されます。

なお、履修登録後、休学・退学した場合及び除籍された場合は、履修登録科目は自動的に取消されます。履修登録は、学生生活担当教員（指導教員）の履修指導を受け、履修計画を立ててから行ってください。

☑ 履修登録科目の確認・修正・取消について（修学支援システムポータルサイト）



10 他教育コース・他学部授業科目履修

10-1 他教育コース授業科目履修

所属する教育コース等以外の授業科目の履修を希望する場合は、履修登録期間中に学務チーム窓口で手続きを行ってください。実験、演習、実習科目を除く授業科目については、所属する教育コース長あるいは工学科長及び当該授業担当教員の許可を得て履修することができます。

修得した単位は、学生が所属する教育コースにおける卒業要件、卒業研究履修要件の専門基礎科目又は専門応用科目の選択科目の単位数に12単位まで含めることができます。

- ※ 1 教育コース長が認める範囲で12単位を超えて含めることができます。
- ※ 2 学生が所属する教育コースの科目に読み替えられる科目の単位は含めません。
- ※ 3 類似又は重複すると判断される科目の単位は含めません。

10-2 他学部授業科目履修

他学部の授業科目の履修を希望する場合は、授業担当教員の下承を得て、履修登録期間中に「他学部授業科目履修願」を学務チームへ提出してください。実験・実習科目など、授業科目の特性上他学部学生の履修が適当ではない場合は、履修が認められない場合がありますので、シラバスをよく確認してください。

修得した単位は、学生が所属する教育コースにおける卒業要件、卒業研究履修要件の専門基礎科目又は専門応用科目の選択科目の単位数に4単位まで含めることができます。

11 単位互換科目・他大学科目

愛媛大学は、複数の大学と単位互換に関する協定を結んでおり、希望者は協定校の授業科目を履修することができます。単位互換科目を受講するには「特別聴講学生入学願」「履修願」を教育支援課に提出してください。

☑ 履修可能な授業科目



上記に記載の大学で修得した科目のうち、人文系及び社会系の中から合わせて4単位までを「共通教育科目」の「教養科目」に、工学に関連する科目のうちから2単位までを「専門教育科目」の「専門基礎科目」又は「専門応用科目」に、各教育コースが認定した場合にのみ、卒業要件、卒業研究履修要件の単位数として含めることができます。

なお、工学部独自の単位互換に関する協定「5大学工学部等間単位互換に関する覚書」（5大学工学部（山形大学、群馬大学、徳島大学、熊本大学、愛媛大学））及び「中国・四国国立大学工学系学部 相互間における単位互換に関する協定」（中国・四国国立大学工学系学部（鳥取大学、島根大学、岡山大学、広島大学、山口大学、徳島大学、香川大学、愛媛大学））に基づき、他大学科目の履修を希望する場合は、学務チーム窓口へ申し出てください。

上記大学で修得した科目は、他学部の専門科目と合わせて、卒業要件、卒業研究履修要件の専門基礎科目又は専門応用科目の選択科目の単位数に4単位まで含めることができます。

※海外の学術交流協定を結んでいる大学（学部等）の科目を履修することができます。これまでに単位互換実績のある大学は以下のとおりです。

- ・ガジャマダ大学（インドネシア）
- ・国立高雄大学（台湾）
- ・バンドン工科大学（インドネシア）
- ・蔚山大学校（大韓民国）


※留学先の協定校で修得した科目の単位の扱いは教育コースごとに異なるため、教育コース長に確認してください。

12 受講上の注意事項（授業の実施場所、休講・補講、授業欠席）

授業を受ける際の注意事項を説明します。知らないばかりに授業を受けられなかったり、必要な連絡ができなかったり、学生生活上の必要な支援が得られなかったり、さまざまな不都合が生じることとなります。受講上の基本的な注意事項については、特に確認しておきましょう。

授業に関するいろいろな連絡は、修学支援システムで行われます。シラバス、休講・補講、落とし物、

行事予定、メッセージ、その他の大事なお知らせ情報が掲載されます。特に、お知らせ情報、メッセージには重要な情報が含まれるため、毎日確認してください。また、登録している学籍情報（住所、電話番号、メールアドレス等）に変更があった場合には、必ず修正してください。修正しなければ、重要な連絡事項がある際に連絡がつかず不利益を被る可能性がありますので注意してください。

 [修学支援システム](#)



12-1 授業の実施場所等

(1) 教室

授業は、主に、次の教室（建物）で行われます。受講する授業の教室は修学支援システムで確認してください。

【共通教育科目】

- ・愛大ミュージズ……………M21～M33、M演習室1～2
- ・コラボハウスホール……………CH
- ・共通講義棟A……………共A11～共A53、多レク1、多レク2、ALR
- ・教育学部4号館……………E41、E42、MPR
- ・総合情報メディアセンター……………第1～第3演習室、メディア演習室

【専門教育科目】

- ・共通講義棟C……………EL11～EL45（EL11とEL25は自習スペース）
- ・工学部本館……………E011
- ・工学部2号館……………PBL333、PBL334、PBL345
- ・工学部4号館……………E411、E421
- ・工学部5号館……………E531、E591

(2) 教室変更


授業科目ごとに確定した受講者数にとまなない、授業開始前後に教室を変更することがあります。教室の変更については、修学支援システムで確認してください。

12-2 休講・補講

(1) 通常の休講・補講

授業担当教員が、出張又は病気等の理由で担当する授業を休講する場合、また、休講授業の補講をする場合は、修学支援システムで通知しますので、毎日確認するようにしてください。

(2) 気象等に関する特別警報又は台風に伴う暴風警報が発表された場合


 [特別警報又は台風に伴う暴風警報が発表された場合の休講について](#)



12-3 授業の欠席

病気、怪我等のやむを得ない理由で授業を欠席する場合は、授業担当教員へ欠席理由を申し出るようにしてください。

なお、「愛媛大学学業成績判定に係る授業欠席の取扱いに関する申合せ」に定められた理由によりやむを得ず授業を欠席する場合には、出席には取り扱われませんが、正当な理由による授業欠席として認められる場合があります。修学支援システムの学生ポータルサイトを確認し、所定の手続きを行ってください。

 [正当な理由による授業欠席について](#)



13 試験・成績

13-1 試験等における受験上の注意

試験については、授業担当教員の指示に従ってください。

- (1) 受験に際しては、「学生証」を必ず持参し、試験時間中は机の上に置いてください。
- (2) 「学生証」を所持していない場合は、携帯電話等の端末を用いて、修学支援システムの学籍情報照会メニューに表示される顔写真を授業担当教員に提示してください。
- (3) (1) (2) が行えない場合、試験を受けることができない場合があります。

13-2 不正行為

試験の際に不正行為を行った者は、「愛媛大学学業成績判定に関する規程」により、当該学期の全成績を判定しないという処置がとられます。また、「愛媛大学学生懲戒処分規程」により退学以下の懲戒処分を受ける場合があります。

13-3 レポートの提出

提出方法については、授業担当教員の指示に従ってください。指示された提出期限を超えると、受理されませんので注意してください。レポート・論文の中で他者の意見を引用する場合は、引用がわかる表示が必要です。適切な表示のない場合は、盗作とみなされることがあります。

〔参考〕レポート作成上で、守るべき事項（ガイドライン）

- ① 書籍・雑誌等から他者（先輩や同級生も含む。）の文章を引用する場合は、該当箇所を明確にした上で、必ず出典を明示すること。これには、インターネット上の文章から引用する場合も含まれる。
- ② 他者が執筆した文献や書籍・雑誌を参考にした場合は、文献名などを明示すること。但し、論旨に直接関連しない場合には、明示の必要はない。
- ③ 他者のデータ等を利用する場合は、該当箇所を明確にした上で、出典等を明示すること。
- ④ 他者との共同による学習成果を利用する際には、その旨を明記すること。
- ⑤ 他者のレポート等をそのまま写して提出すること、他者に依頼し作成したレポートを提出すること、あるいは複数科目において同一内容のレポートを提出することは、言うまでもなく絶対に行ってはならない行為である。また、自己の学習成果を盗用目的の他者に供与することも厳に慎むべき行為である。

なお、学習における生成AIの利活用については、気を付けるべき点をまとめて大学ホームページで随時発信していますので、確認しておいてください。

☑ 教育活動における生成AIの利活用における留意事項について（第2報）
～学習における生成AIの利活用について～（令和5年11月16日）



13-4 追試験

次に掲げる事情で、定められた期日に受験できなかった場合、追試験を受けることができる場合があります。

- (1) 正当な理由による授業の欠席として認めることができる事由
- (2) その他やむを得ない理由であると認められるもの

なお、追試験を受けようとする者は、当該科目の授業担当教員の指示に従い、必要に応じて「追試験願」及び「その事情を証明できる書類等」を授業担当教員または学務チーム（共通教育科目は共通教育チーム）へ提出してください。なお、授業担当教員には、試験日の翌日から起算して3日後以内に申し出てください。

い。また、3日を超える場合であってもやむを得ない事情であると教務委員長等が判断した場合は認められる場合があります。

13-5 成績の評価

成績は、試験及び平素の成績をもとに総合的に評価されます。試験は、筆記、レポート等により実施されます。平素の成績は、授業時間中の小テスト、課題の提出状況等によって判定されます。授業科目ごとの成績判定については、シラバスの「成績評価方法」の項目に記載されていますので参考にしてください。

成績の判定には、当該授業科目の開講時間数のうち、少なくとも3分の2以上の出席が必要です。ただし、欠席の理由によっては、「正当な理由による欠席」として認められる場合があります。

[☑ 成績判定について](#)



13-6 成績の確認と成績確認申立

成績は、所定の期日以降に修学支援システムにより、確認してください。成績通知日は前学期末及び後学期末の年2回です。

成績判定について疑義が生じた場合は、成績の通知後、原則として1週間以内に、成績確認申立書を提出し、成績の確認を申し立てることができます。申立てを行う場合は、「学業成績判定に関する申立てについて」の内容に従い、具体的な理由を明確にしたうえで、学務チーム（共通教育科目は共通教育チーム）に申し出てください。

[☑ 成績確認・成績確認申立てについて](#)



13-7 保証人への成績情報の開示について

本学では、事前に同意いただいている場合、保証人がWeb上で成績情報を確認できます。成績情報の確認に際しては、事前に本学から保証人にご案内をお送りします。

[☑ 成績確認について（保証人向け）](#)



13-8 GPAについて

学生自身による学習プロセス及び達成状況の自己管理に役立てるとともに、教員による学生の学修状況の把握及びきめ細やかな指導・助言を行うために、「全学共通GPA」を導入しています。

[☑ 全学共通GPAについて](#)



また、全学共通GPAとは別に、工学部独自のGPA（目的別GPA）があります。全学共通GPAと目的別GPAは、それぞれ以下の計算式で産出されます。

● 全学GPA

$$\frac{4 \times \text{「秀」の単位数} + 3 \times \text{「優」の単位数} + 2 \times \text{「良」の単位数} + 1 \times \text{「可」の単位数}}{\text{総履修登録単位数}}$$

● 目的別（工学部）GPA

$$\frac{4 \times \text{「秀」の単位数} + 3 \times \text{「優」の単位数} + 2 \times \text{「良」の単位数} + 1 \times \text{「可」の単位数}}{\text{総修得単位数}}$$

なお、成績評価が〔合格／不合格〕で行われている科目はGPT、GPAの算出対象から除外されます。

【GPAの確認方法】

修学支援システムの「個別成績表」及び「成績集計値・GPA」に、通算GPA・GPT（GPの合計）、学期GPA・GPTが表示されます。

14 卒業見込・卒業研究履修要件

4年次に「卒業研究」を履修するためには、3年次後学期終了時まで各教育コース等で定められた修得単位数要件を満たすことが必要です。専門教育科目は各教育コース等によって要件が異なります。P20以降の教育課程表を確認してください。

※修得した単位数が卒業研究履修要件を満たさない場合でも、教育コースにおいて特別の事情があると認めるときには、卒業研究を履修させることがあります。

15 卒業認定・早期卒業

原則として、4年以上（休学期間を除く。編入学生については定められた年数）在学し、かつ以下の卒業要件の単位を修得した場合は、卒業が認定されます。

<卒業要件>（全コース・プログラム共通）

【共通教育科目】25単位以上

基盤科目……………必修11単位を含む11単位

未来思考支援科目……………必修2単位を含む2単位

教養科目……………12単位以上。ただし愛大スタンダード科目3単位を含むこと。

【専門教育科目】99単位以上

工学共通基礎科目……………必修18単位を含む18単位

専門入門科目……………必修6単位を含む6単位

専門科目（専門基礎科目・専門応用科目）……………必修科目すべてを含む75単位以上 ※詳細はP.19参照

通常は4年次の3月に卒業しますが、成績が極めて優秀で学業に強い意欲のある学生は3年以上の在学（休学期間を除く。）で卒業できる早期卒業制度があります。

早期卒業希望者は、まず「早期卒業予定者」の資格を得なければなりません。早期卒業予定者の資格審査を希望する学生は、2年次学年末以降の所定の時期に所属教育コース長に申し出てください。審査基準、審査方法等については、修学支援システム等でお知らせします。

早期卒業予定者の資格を得た学生が、卒業要件に必要な単位を修得し、かつGPAが別に定める値以上である（あるいは見込まれる）とき、早期卒業するための申請をすることができます。

1	主要スケジュール
2	愛大生と教育方針
3	学部と教育方針
4	基本知識
5	単位制度
6	履修登録単位数の上限
7	履修コースの決定
8	教育目標・修業科目ナ
9	履修登録手続き等
10	他教育コース・他学部
11	単位互換科目・他
12	受講上の注意事項
13	試験・成績
14	卒業見込・卒業研究履修要件
15	卒業認定・早期卒業
16	転学部
17	学部のサポート
18	教育職員免許状
19	その他の資格について
20	学内諸規程

16 転学部

他の学部に転学部を希望する者があるときは、選考（試験）の上、許可される制度があります。転学部の選考は、必ず実施するわけではないので、詳細については、転学部を希望する学部の学務担当チームへ問い合わせてください。

17 学びのサポート（教科書、自主学習スペース、学習支援、履修相談窓口）

17-1 教科書

（1）購入方法

毎学期の始め、愛媛大学生協で販売されます。使用する教科書はシラバスで事前に確認をしてください。

（2）活用方法

大学における教科書は、単に授業時間内だけに利用されるものではありません。1つの授業で伝えるべき内容は数多くあり、授業時間内に伝えることのできる範囲は限られています。授業で理解できないことや、疑問点を解消するために予習することが、授業を受講するのと同様に大切なことです。自習用のテキストとしても大いに活用してください。

17-2 大学内での自主的な学習

（1）図書館を利用する

図書の貸出、閲覧をはじめ、図書館は皆さんが必要とする情報を収集できる場です。詳細については以下のサイトで確認してください。

☑ 愛媛大学中央図書館



（2）学内の学習スペースを利用する

授業時間外学習促進のための自主学習スペースを積極的に活用してください。利用にあたっては、注意事項を守り、お互いが気持ちよく使えるように心がけてください。

・共通スペース

●コミュニケーションラウンジ

利用時間：授業期間中の月～金曜日 8：30～21：00

授業期間外の月～金曜日 9：00～17：00

※土日祝日、夏季一斉休業、年末年始は使用できません。

場 所：共通講義棟A1階

●スカイラウンジ・ノース

利用時間：月～金曜日 8：30～21：00

※土日祝日、夏季一斉休業、年末年始は使用できません。

場 所：愛大ミュージズ3階

・学部学生用スペース

●共通講義棟C リフレッシュルーム

利用時間：平日 8：00～20：00頃（講義棟開錠～施錠）

※土日祝日、夏季一斉休業、年末年始は使用できません。
場 所：共通講義棟C 1階 EL11、2階 EL25

17-3 学習支援

愛媛大学では、皆さんの学びを応援するために、さまざまな学習支援を行っています。これらの情報をまとめた「学習支援サイト」と、自主学習などに役立つ動画を集めた「学習支援動画サイト」を大学ホームページで公開しています。大学での学びをより深め、充実した学生生活を送るために、ぜひ活用してください。

☑ 学習支援サイト

学習支援イベントの情報、学習支援アドバイザー・大学院生による個別相談の案内を掲載しています。



☑ 学習支援動画サイト

レポートの書き方、文章の読み方、時間管理など、大学での学びに必要なスキルを紹介する動画教材をまとめています。いつでも自由に視聴できるので、自主学習や授業の予習・復習にご活用ください。



☑ ピア・ルーム

学生ボランティアの「スチューデント・キャンパス・ボランティア (SCV)」が、履修方法だけでなく、学生生活、課外活動、就職、友人関係、進学など、皆さんの多種多様な疑問・不安・悩みの相談に対応しています。相談内容によっては、「SCV」が相談機関や教職員を紹介してくれ、適切な指導を受けることができます。



場 所：愛大ミュージズ2階南側

利用方法：事前に以下のメールアドレスあてに、「氏名」「所属」「学年」「相談内容（簡単でOK）」「相談希望日時」をご連絡ください。

メールアドレス：scv.ehime@gmail.com

17-4 履修相談窓口（学務に関する内容）

工学部事務課学務チーム（工学部本館1階）※対応時間：平日8時30分～17時15分

☑ 愛媛大学工学部ホームページ



履修に関する各種問い合わせ先は、修学支援システムのポータルサイトでも確認することができます。相談内容に応じて、該当する窓口へ問い合わせてください。

☑ お問い合わせ先（修学支援システムポータルサイト）



1 主要スケジュール

2 愛媛大学学生コンベンション

3 学部との教育方針と教育理念

4 大学で学ぶ基本知識

5 単位制度

6 履修登録単位数の上限

7 履修コースの決定

8 教育目標・教育課程表履修方法・科目ナンバリング

9 履修登録手続き等

10 他学部コース・他学部授業科目履修

11 単位互換科目

12 受講上の注意事項

13 試験・成績

14 卒業見込・卒業研究履修要件

15 卒業認定・早期卒業

16 転学部

17 学びのサポート

18 教育職員免許状

19 その他の資格について

20 学内諸規程

18 教育職員免許状

幼稚園や小・中・高等学校の先生になるには教育職員免許状を取得することが必要であり、そのためには、法律に定められた内容を学修することが求められます。

愛媛大学では、教職課程の質的水準の向上を目指して教職総合センターを設置し、全学的に責任ある指導体制のもと、教員養成に取り組んでいます。また、「教職課程のディプロマ・ポリシー（愛媛大学で教師を目指す者が卒業時に身につけておくべき資質能力）」を定めて到達目標を明示しています。「教職課程のディプロマ・ポリシー」を念頭に置きながら、「子どもとともに成長する先生」を目指し学修を積み重ねてください。

愛媛大学での教職履修の詳細については、教職総合センターホームページに掲載されている「先生になるために－教職履修の手引き－」（令和8年度入学者適用）（以下、「先生になるために」という。）を必ず確認してください。

🔗 教職総合センターホームページ



🔗 「先生になるために－教職履修の手引き－」



愛媛大学教職課程のディプロマ・ポリシー（DP）

1. 教科・教職に関する幅広い基礎知識と、得意分野の専門的知識を有している。
2. 学校現場で生じている問題を始めとして地域や社会全体に関わる課題について、適切な対応を考え議論することができる。
3. 幼児・児童・生徒の発達に応じた保育・授業の構成や教材・教具の工夫ができる。
4. 実践から学び、自己の学習課題を明確にして、理論と実践を結びつけた学習ができる。
5. 教育的愛情を持って幼児・児童・生徒に接することができるとともに、多世代にわたる対人関係力を身につけ、社会の一員として適切な行動ができる。

取得できる教育職員免許状の種類

本学において、所定の授業科目の単位を修得し、学士の学位を取得した者は、各自の所属する学部及び学科・課程に定められた種類及び教科の教育職員免許状を取得することができます。原則として、所属する課程に定められた教育職員免許状以外は卒業時に取得することはできません。

工学部で卒業時に取得可能な教育職員免許状は次のとおりです。

- ・高等学校教諭一種免許状 理科
- ・高等学校教諭一種免許状 情報
- ・高等学校教諭一種免許状 工業

※ 「学校設置者等及び民間教育保育等事業者による児童対象性暴力等の防止等のための措置に関する法律」、通称「こども性暴力防止法」の施行に伴い、教育実習等のこどもと関わる実習について犯罪事実確認が行われる可能性があります。特定性犯罪前科が確認された場合は実習を行うことができません。実習を行うことができない場合は、教育職員免許状の取得要件を満たすことができず、教育職員免許状を取得することはできません。

18-1 「教育職員免許状」の取得方法

本学の「教育職員免許状」の取得方法については、「先生になるために II 教育職員免許状取得までの流れ」を確認してください。

(1) 基礎資格 及び (2) 所定の科目(単位)の修得

教育職員免許法(以下、「免許法」とする)に定められた基礎資格及び最低修得単位数については「先生になるために IV. 基礎資格及び必要な単位数」を確認して下さい。

免許法の規定に基づき、本学では各区分の最低取得単位数を設定しています。

工学部で修得すべき単位数は次のとおりです。

免許状の種類	愛媛大学において修得すべき最低単位数				
	①教科及び教科の指導法に関する科目	②教育の基礎的理解に関する科目等	③大学が独自に設定する科目	合計	文部科学省令で定める科目
高等学校教諭一種免許状(理科)	24単位	24単位	11単位	59単位	8単位
高等学校教諭一種免許状(情報)	24単位	24単位	11単位	59単位	8単位
高等学校教諭一種免許状(工業)	24単位	24単位	11単位	59単位	8単位

「教職科目」

教職総合センターでは、教育職員免許状を取得する上で必要となる科目のうち、次の科目を教職課程における「教職科目」と位置づけ区分しています。

- ・「教科の指導法に関する科目(教科教育法など)」
- ・「教育の基礎的理解に関する科目等(教職基礎論や教育制度論、教育実習など)」
- ・文部科学省令で定める科目「教職日本国憲法」「スポーツと教育」

「教職履修ガイダンス」の受講と「教職履修希望届」の提出

教職科目は「教職履修ガイダンス」の受講と「教職履修希望届」の提出が履修条件となっています。「教職履修ガイダンス」は1年次前学期に実施されますので、教職を志望する場合は必ず受講し、ガイダンス受講後、「教職履修希望届」を提出してください。

■教科及び教科の指導法に関する科目の修得

○「理科」の教科及び教科の指導法に関する科目

		事項	授業科目名	単位数	必修 選択必修
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	物理学	物理基礎Ⅰ	1	◎
			物理基礎Ⅱ	1	◎
		化学	物理化学Ⅰ	2	
			基礎有機化学	2	◎
			分析化学Ⅰ	1	
			分析化学Ⅱ	1	
			物理化学Ⅱ	1	
			量子化学	2	
			無機化学	2	◎
			有機化学Ⅰ	2	
			有機化学Ⅱ	2	
			高分子化学Ⅰ	2	
			機器分析	2	
			錯体化学	2	
			電気化学	1	
			有機化学Ⅲ	2	
			高分子化学Ⅱ	2	
			高分子化学Ⅲ	2	
		生物学	基礎生物学	2	◎
			生化学Ⅰ	1	
			生化学Ⅱ	1	
			分子生物学	2	
			分子細胞生物学	1	
		地学	地学Ⅱ	2	◎
		「物理学実験、化学実験、生物学実験、地学実験」	応用化学実験Ⅰ	2	◎
			応用化学実験Ⅱ	4	
			応用化学実験Ⅲ	4	
		各教科の指導法 (情報通信技術の活用を含む。)	理科教育法1(2年前)	2	◎
理科教育法2(2年後)	2		◎		
必要な単位数		上記授業科目から24単位以上			

※上記授業科目から24単位以上取得すること。ただし、◎がついている科目は必ず含むこと。

※「教科に関する専門的事項」の必要単位数を超えて修得した単位は「大学が独自に設定する科目」に充てることができます。

※化学・生命科学コースでは、卒業時に教育職員免許状「理科」を取得した場合に限り、「教育の基礎的理解に関する科目等」「地学Ⅱ」「理科教育法1」「理科教育法2」のうち10単位までを卒業に必要な専門基礎科目または専門応用科目に含めることができます。

○「情報」の教科及び教科の指導法に関する科目

		事項	授業科目名	単位数	必修 選択必修
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	情報社会（職業に関する内容を含む。）・情報倫理	サイバーセキュリティ	2	○
			情報と職業	2	○
		コンピュータ・情報処理	計算機システムⅠ	2	○
			Cプログラミング演習	1	○
			情報工学実験Ⅱ	1	
			Cプログラミング	2	○
			数値最適化	2	
			データ構造とアルゴリズム	2	○
			論理回路	2	○
			計算機システムⅡ	2	
			情報数学	2	
		情報システム	データベース	2	○
			情報工学実験Ⅰ	1	
			オペレーティングシステム	2	
			組込みシステム開発基礎	2	
		情報通信ネットワーク	情報ネットワーク	2	○
			情報理論（情報）	2	
		マルチメディア表現・マルチメディア技術	画像情報工学	2	○
			ビジュアルコンピューティング	2	
			情報工学実験Ⅳ	1	
			ヒューマンコンピュータインタラクション	2	
		各教科の指導法 （情報通信技術の活用を含む。）	情報科教育法1（3年前）	2	○
			情報科教育法2（3年後）	2	○
必要な単位数			上記授業科目から24単位以上		

※上記授業科目から24単位以上取得すること。ただし、○がついている科目は必ず含むこと。

※「教科に関する専門的事項」の必要単位数を超えて修得した単位は「大学が独自に設定する科目」に充てることができます。

※コンピュータ科学コース・応用情報工学コース及びデジタル情報人材育成特別プログラムでは、卒業時に教育職員免許状「情報」を取得した場合に限り、「情報科教育法1」「情報科教育法2」の2科目の単位は、卒業要件の専門基礎科目または専門応用科目の修得単位として認められる場合があります。

1 主要スケジュール
2 愛大学生コンピテンシー
3 学部のと教育理念
4 大学の基本知識
5 単位制度
6 履修登録単位の上限
7 履修コースの決定
8 教育目標
9 履修登録手続き等
10 他学部
11 単位互換科目
12 受講上の注意事項
13 試験・成績
14 卒業見込
15 卒業認定・早期卒業
16 転学部
17 学部のサポート
18 教育職員免許状
19 その他の資格について
20 学内諸規程

○「工業」の教科及び教科の指導法に関する科目

事 項		授業科目名	単位数	必修 選択必修	授業科目名	単位数	必修 選択必修
教科及び教科の指導法に関する科目	工業の関係科目	工学リテラシー	2	◎	電気電子工学演習Ⅱ	1	
		化学基礎	2		過渡現象	2	
		情報工学入門	1		アナログ電子回路	2	
		機械製作実習	1		デジタル電子回路	2	
		CAD実習	1		電気電子計測	2	
		設計製図	2		制御工学	2	
		機械工学実験	2		プログラミング演習	1	
		材料力学Ⅰ	2		電気機器Ⅰ	2	
		材料力学演習	1		電気機器Ⅱ	2	
		熱力学Ⅰ	2		発変電工学	2	
		熱力学演習	1		送配電工学	2	
		機械力学Ⅰ	2		パワーエレクトロニクス	2	
		機械力学演習	1		半導体工学	2	
		流体力学Ⅰ	2		情報理論(電気)	2	
		流体力学演習	1		デジタル通信	2	
		機械設計法	2		アナログ通信	2	
		応用力学	2		電気機器設計製図	2	
		応用数学Ⅰ(機械系)	2		電気法規及び施設管理	2	
		応用数学Ⅱ(機械系)	2		電波及び通信法規	2	
		技術英語(機械系)	2		基礎電磁気学	2	
		C言語基礎	2		くらしの中の電気	2	
		制御基礎理論	2		電気電子材料	2	
		制御基礎理論演習	1		電子デバイス	2	
		伝熱工学	2		通信工学概論	2	
		伝熱工学演習	1		電磁気学	2	
		ロボット機構学	2		電磁気学演習	1	
		材料力学Ⅱ	2		微分方程式(材料)	2	
		応用加工学	2		振動・波動	2	
		熱力学Ⅱ	2		基礎電気回路	2	
		機械力学Ⅱ	2		材料科学技術英語	2	
		流体力学Ⅱ	2		材料工学実験Ⅱ	1	
		制御・福祉工学	2		材料工学実験Ⅲ	1	
		メカトロ・人工知能工学	2		材料工学実験Ⅳ	1	
		流体工学	2		金属組織学Ⅰ	2	
		ロボット・生体工学	2		材料力学	2	
		エネルギーシステム工学	2		材料物理化学	2	
		知能システム学実験	2		金属組織学Ⅱ	2	
		電気電子工学概論	2		材料強度学	2	
		電気電子工学実験Ⅰ	2		セラミックス材料工学	2	
		電気電子工学実験Ⅱ	2		金属材料学	2	
		電気電子工学実験Ⅲ	2		固体物性工学	2	
		電気電子数学Ⅰ	2		結晶回折学	2	
		電気電子数学Ⅱ	2		電池材料学	1	
		電気回路Ⅰ	2		誘電体材料工学	1	
		電気回路Ⅱ	2		光材料工学	1	
		電気磁気学Ⅰ	2		金属接合工学	1	
		電気磁気学Ⅱ	2		磁性材料工学	1	
電気電子工学演習Ⅰ	1		鉄鋼・非鉄製錬工学	1			

事項		授業科目名	単位数	必修 選択必修	授業科目名	単位数	必修 選択必修	
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	工業の関係科目	半導体材料工学	1		技術英語（環境建設系）	2	
			熱力学	2		デジタルデザイン	2	
			力学	2		構造解析学	1	
			材料化学	2		河川工学	1	
			応用数学Ⅰ（環境建設系）	2		海岸工学	1	
			応用数学Ⅱ（環境建設系）	2		土木・建築防災工学	1	
			測量学	2		地盤工学	1	
			測量学実習	1		岩盤工学	1	
			環境建設工学実験Ⅰ	2		交通工学Ⅰ	1	
			環境建設工学実験Ⅱ	2		交通工学Ⅱ	1	
			構造力学Ⅰ及び同演習	3		コンクリート構造工学	1	
			構造力学Ⅱ及び同演習	3		社会基盤材料工学	1	
			水理学Ⅰ及び同演習	3		土木情報学	1	
			水理学Ⅱ及び同演習	3		生態系保全工学	1	
			土質力学Ⅰ及び同演習	3		建築設計製図Ⅰ	3	
			土質力学Ⅱ及び同演習	3		建築と社会のデザイン	2	
			コンクリート材料	2		建設分野のデジタル技術	2	
			土木計画学及び同演習	3		建築・都市・土木史	2	
			地球生態学	2		建築設計製図Ⅱ	3	
	建設情報マネジメント	2		建築計画Ⅰ	2			
職業指導	職業指導概論（4年前）	2	◎					
各教科の指導法 （情報通信技術の活用を含む。）	工業科教育法1（3年前）	2	◎	工業科教育法2（3年後）	2	◎		
必要な単位数	上記授業科目から24単位以上							

※上記授業科目から24単位以上取得すること。ただし、◎がついている科目は必ず含むこと。

※「教科に関する専門的事項」の必要単位数を超えて修得した単位は「大学が独自に設定する科目」に充てることができます。

※高一種免（工業）の「工業科教育法1・2、教育の基礎的理解に関する科目等」の全部又は一部の単位は、当該教科の「教科に関する専門的事項」の単位で代替することができます。詳細は、工学部事務課学務チームにお問い合わせください。

1 主要スケジュール
2 愛大生コンプレクシー
3 学部との教育理念
4 大学で学ぶ基本知識
5 単位制度
6 履修登録単位数の上限
7 履修コースの決定
8 教育目標
9 履修登録手続き等
10 他教育科目履修
11 単位互換科目・他
12 受講上の注意事項
13 試験・成績
14 卒業見込・卒業要件
15 卒業認定・早期卒業
16 転学部
17 学びのサポート
18 教育職員免許状
19 その他の資格について
20 学内諸規程

■教育の基礎的理解に関する科目等

○教育の基礎的理解に関する科目等（理科・情報・工業）

区分	科目名	必要単位数	開講学年・クォーター								ポート フォリオ	備考		
			高校		1年		2年		3年				4年	
			一種	前	後	前	後	前	後	前			後	
教育の基礎的理解に関する科目	教育原論	2			2							○		
	教職基礎論	2		2								○		
	教育制度論	2			2							○		
	発達と学習	2			2							○		
	特別支援教育の基礎・基本	2						2				○		
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	総合的な学習の時間の指導法	1						1				○		
	教育とICT活用	1						1				○		
	特別活動論	1						1				○		
	教育の課程と方法	2						2				○		
	生徒指導・進路指導論	2						2				○		
	教育相談論	2						2				○		
教育実践に関する科目	教育実習事前・事後指導	1								1		○		
	教育実習4	2								2		○	2週間(60時間)	
	教職実践演習(中・高)	2								2				
必要単位数の合計		24												

【注】 修得した科目についてポートフォリオ（ラーニング・ログ○、プラクティス・ログ○）を作成する必要があります。

高一種免（工業）の「工業科教育法1・2、教育の基礎的理解に関する科目等」の全部又は一部の単位は、当該教科の「教科に関する専門的事項」の単位で代替することができます。詳細は、工学部事務課学務チームにお問い合わせください。

■大学が独自に設定する科目の修得

取得する免許状の「教科に関する専門的事項」から11単位以上修得してください。

■文部科学省令で定める科目の修得

以下の共通教育科目は文部科学省令で定める科目です。必ず修得してください。開講される年次・学期等については「8. 教育目標、教育課程表、履修方法、科目ナンバリング」で確認してください。

文部科学省令で定める科目 (単位数)	左記に対応する本学の 開講科目	単位数	区分
日本国憲法	教職日本国憲法※	2単位	教養科目
体育	スポーツ	1単位	基盤科目
	スポーツと教育※	1単位	教養科目
外国語コミュニケーション	English Communication Strategies	2単位	基盤科目
数理、データ活用及び人工知能に関する 科目又は情報機器の操作	情報リテラシー入門Ⅰ	1単位	基盤科目
	情報リテラシー入門Ⅱ	1単位	
合計	8単位		

※「教職日本国憲法」は以下①、②を、「スポーツと教育」は以下①～③を満たすことが履修条件です。

- ① 「教職履修ガイダンス」に出席していること
- ② 「教職基礎論」を修得済みであること
- ③ 「スポーツ」を修得済みであること

※第Ⅰ期リフレクション・デイに参加し、教職e-ポートフォリオ（リフレクション・ログを含む）を提出していること又は工学部で「工業」の高等学校教諭一種免許状の取得を希望する者については、「教職履修意思確認書」を提出していることを②の代替条件とすることができます。

(3) 教職e-ポートフォリオ（教職課程学習ポートフォリオ）の作成

本学の教職課程では、Web上（Moodle）で①ラーニング・ログ（学習記録）・②プラクティス・ログ（実践体験記録）・③リフレクション・ログ（省察記録）の蓄積・整理する「教職e-ポートフォリオ」を作成します。作成方法などは「教職履修ガイダンス」やMoodle上で説明されています。①ラーニング・ログの作成が必要な科目及び単位表は以下のとおりです。

ラーニング・ログ対象科目、単位

- ・教育の基礎的理解に関する科目等の全て
- ・教科及び教科の指導法に関する科目（教科教育法など）表のなかで修得した「各教科の指導法」から4単位
- ・「教科に関する専門的事項」から16単位以上（◎がついている科目を必ず含む）

(4) リフレクション・デイへの参加

本学では、理論と実践を結びつけた学習を支援し実践力の高い教員を養成するため、リフレクション・デイ（第Ⅰ期・第Ⅱ期・第Ⅲ期）を設けています。リフレクション・デイでは、各自が作成した教職e-ポートフォリオを用いて、授業や様々な活動を通して学んだ知識や技能などの振り返り（省察）をします。リフレクション・デイの実施時期など詳細は「先生になるために V 教職実践演習へ向けて」を確認してください。

すべてのリフレクション・デイに参加しなければ、4年次後学期に開講される「教職実践演習」の履修ができず、教育職員免許状を取得することができません。（ただし、工業の教育職員免許状取得希望者で「教育の基礎的理解に関する科目等」を履修しない場合を除く）。

1	主要スケジュール
2	愛大生コンピテンシー
3	学部教育理念と教育方針
4	大学で学ぶ基本知識
5	単位制度
6	履修登録単位数の上限
7	履修コースの決定
8	教育目標・教育課程表履修方法科目ナンバリング
9	履修登録手続き等
10	他教育コース・他学部履修
11	単位互換科目・他
12	受講上の注意事項
13	試験・成績
14	卒業見込・卒業要件
15	卒業認定・早期卒業
16	転学部
17	学びのサポート
18	教育職員免許状
19	その他の資格について
20	学内諸規程

【教職実践演習】

「教職実践演習」は、教職課程の授業科目やそれ以外での様々な活動を通じて学生が身に付けた資質能力が、教員として最小限必要なものとして有機的に統合され形成されたかについて、大学が自ら養成する教員像や到達目標等（教職課程のディプロマ・ポリシー）に照らして最終的に確認する必修科目で、4年次後学期に開講されます。

「教職実践演習」の履修希望については4年次前学期の履修登録期間に合わせて、修学支援システムで通知されます。

【教職実践演習】の履修条件

- ①「教職課程学習ポートフォリオ」（3種類のログ）を作成していること。
- ②「リフレクション・デイ」（第Ⅰ～Ⅲ期の3回）に参加していること。
- ③「教職実践演習」（4年次後学期）履修時点で、未修得の「教育の基礎的理解に関する科目等」（「教育実習」、「教育実習事前・事後指導」を除く）が、3科目以内であること。
- ④「教職実践演習」（4年次後学期）履修時点で、取得予定教科の各教科の指導法に関する科目を1科目以上修得済みであること。
- ⑤「教育実習」を履修していること（当該学期に履修する場合を除く）。

【教職実践演習】の単位認定条件

次の2つの条件を満たさなければ「教職実践演習」の単位は認定されません。

- ①教育職員免許状を取得するために必要なすべての単位を修得していること。
- ②必要な「教職課程学習ポートフォリオ（教職e-ポートフォリオ）」を作成していること。

（5）教育実習

教育職員免許状の取得に必要な教育実習の単位及び履修の手続きについては「先生になるためにⅥ. 教育実習・養護実習」を確認してください。

なお、事前・事後指導を受講しなければ、教育実習の単位は認められませんので、必ず履修してください。

教育実習の履修要件

- ①「教育実習事前指導」を受講していること。
- ②開講されている「各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）、教育の基礎的理解に関する科目等」をすべて修得していることが望ましい。
- ③当該年度に卒業が可能であること。
- ④卒業時に教育職員免許状の取得が可能であること。

※教育実習は愛媛大学附属高等学校・出身高等学校又は実習協力校で行います。

（6）愛媛県教育委員会への授与申請（一括申請）

本学卒業予定者で、本学が定める教育職員免許状取得の所要資格を満たす見込みの者は、本学が愛媛県教育委員会へ一括して申請することにより、卒業と同時に愛媛県教育委員会から免許状の授与を受けることができます。（授与された教育職員免許状は、全国の都道府県で有効です。）

手続きの時期など、詳細については「先生になるためにⅧ 教育職員免許状申請」を確認してください。

18-2 その他

【地域連携実習】

「地域連携実習」とは愛媛県内の教育関係機関からの依頼を受けて実施している教育体験活動です。在学中に、実際の教育現場などで、体験を通して学ぶことができます。参加を希望する場合は毎年度「地域連携実習ガイダンス」を受講してください。

また、地域連携実習での活動を評価する制度として、活動実績に応じて「地域未来教育賞」「地域教育

支援認定証」という2種類のオープンバッジが授与されます。オープンバッジは履歴書やメールの署名等に記載することができるデジタル証明書です。

地域連携実習の受付は教職支援ルームで行っています。詳細は、教職支援ルームのホームページを確認してください。

学生支援について

本学では、教職支援ルームの開設や教職課程を有する学部「教職コーディネーター」と呼ばれる教員の配置等、教員を目指す全学生を対象に様々な支援を行っています。

また、修学支援システムの就職に関するお知らせ情報に教員採用試験関係（募集要項、採用試験説明会、大学推薦等）の情報を掲載しています。

上記のほか、学生支援についての詳細は「先生になるために IX 学生支援」や教職支援ルームのホームページを確認してください。

[教職支援ルームホームページ](#)



19 その他の資格について

実社会では、職種によっては国家資格をもつことが法律で義務付けられている場合があります。それに対して国家試験又は資格認定講習などが課され、それらの結果により免状が授与されます。工学部卒業生又は特定コース卒業生に関連のある諸資格のうち、主な資格として次のものがあります。

なお、各資格に係る実務経験や申請方法等の具体的な内容については、各資格に係るホームページ等を参照してください。

技術士（技術士法）

第1次試験（技術士補）を受験・合格し、技術士補（修習技術者）となった後、定められた期間の実務経験により、第2次試験（技術士）を受験することができます。

（主務官庁 文部科学省）

安全管理者（労働安全衛生規則）

工学部卒業生で2年以上産業安全の実務に従事した経験を有し、定められた研修を修了した者は安全管理者に就任できます。

（主務官庁 厚生労働省）

エネルギー管理士（エネルギー管理士免状交付規則）

エネルギー管理士試験に合格し、エネルギーの使用の合理化に関する実務に1年以上従事した場合、申請によりエネルギー管理士免状が交付されます。（この実務経験は受験の前でも後でも構いません。）

また、認定研修による取得方法としては、卒業後、エネルギーの使用の合理化に関する実務に3年以上従事した者は、エネルギー管理士研修（熱管理研修又は電気管理研修）を受講し修了すれば、申請によりエネルギー管理士免状が授与されます。

（主務官庁 経済産業省）

ボイラー技士（ボイラー及び圧力容器安全規則）

在学中ボイラーに関する学科を修め（蒸気ボイラー又は蒸気原動機について2単位以上修得）、卒業後ボイラーの取り扱いについて2年以上の実地修習を経た者は、特級ボイラー技士試験を受験できます。また、卒業後ボイラーの取り扱いについて1年以上の実地修習を経た者は、1級ボイラー技士試験を受験できます。

（主務官庁 厚生労働省）

第一級陸上無線技術士（電波法）

電気電子工学コースの卒業生で、在学中に次の関係科目を修得した者は、卒業の日から3年以内に限り、国家試験の科目のうち「無線工学の基礎」を免除されます。

▼取得すべき授業科目等

認定基準に 規定する科目		(令和8年4月入学、令和12年3月卒業者から対応)				備 考
		卒業生が履修する科目並びに時間			卒業要件の選択 必修の別	
		令和8年度課程表	単位数	時間数		
基礎専門 教育科目	数 学	基礎統計学 ※1	1	11.25 (15)	必修	210 時間以上の単位を 取得すること。
		微積分 I A ※1	2	22.5 (30)	必修	
		微積分 I B	2	22.5 (30)	必修	
		線形代数 I ※1	2	22.5 (30)	必修	
		線形代数 II	2	22.5 (30)	必修	
		微積分 II	2	22.5 (30)	必修	
		関数論	2	22.5 (30)		
		電気電子数学 I	2	22.5 (30)	必修	
		電気電子数学 II	2	22.5 (30)	必修	
		微分方程式 (電気)	2	22.5 (30)		
		情報数学 ※2	2	22.5 (30)		
		統計解析 ※2	2	22.5 (30)		
	物 理	機械基礎力学 ※3	2	22.5 (30)		105 時間以上の単位を 取得すること。
		流体力学 I ※3	2	22.5 (30)		
		材料力学 I ※3	2	22.5 (30)		
		物理基礎 I ※1	1	11.25 (15)	必修	
		物理基礎 II ※1	1	11.25 (15)	必修	
		電子物性	2	22.5 (30)		
		放電物理	1	11.25 (15)		
		プラズマエレクトロニクス	1	11.25 (15)		
		電気電子材料	2	22.5 (30)		
		くらしの中の電気	2	22.5 (30)		
	電気磁気学	電気磁気学 I	2	22.5 (30)	必修	120 時間以上の単位を 取得すること。
		電気磁気学 II	2	22.5 (30)	必修	
		基礎電磁気学	2	22.5 (30)		
		電気電子工学演習 I	1	22.5 (30)	必修	
		電気機器 I	2	22.5 (30)		
		電気機器 II	2	22.5 (30)		
	半導体及び 電子管 並びに 電子回路の 基礎	電磁波工学	1	11.25 (15)		90 時間以上の単位を 取得すること。
		半導体工学	2	22.5 (30)		
		電子デバイス	2	22.5 (30)		
		電気電子工学演習 II	1	22.5 (30)	必修	
		アナログ電子回路	2	22.5 (30)		
ディジタル電子回路	2	22.5 (30)				

認定基準に規定する科目	(令和8年4月入学、令和12年3月卒業者から対応)				備考	
	卒業生が履修する科目並びに時間			卒業要件の選択必修の別		
	令和8年度課程表	単位数	時間数			
基礎専門教育科目	電気回路	電気回路Ⅰ	2	22.5 (30)	必修	120時間以上の単位を取得すること。
		電気回路Ⅱ	2	22.5 (30)	必修	
		過渡現象	2	22.5 (30)		
		送配電工学	2	22.5 (30)		
		制御工学	2	22.5 (30)		
		高電圧工学	2	22.5 (30)		
	電気磁気測定	電気電子工学実験Ⅰ	2	60 (60)	必修	180時間以上の単位を取得すること。
		電気電子工学実験Ⅱ	2	60 (60)	必修	
		電気電子工学実験Ⅲ	2	60 (60)	必修	
		無線工学	1	11.25 (15)		
		電気電子計測	2	22.5 (30)		

- ※1 工学共通基礎科目
- ※2 コンピュータ科学コース、応用情報工学コースの専門基礎科目
- ※3 機械工学コース、知能システム学コースの専門基礎科目

注 1コマが90分の授業科目については、90/120により実時間に換算した時間数を記載している。
 (カッコ内の数字は、シラバスの単位に応じた時間数を記載)
 「認定基準に規定する科目」ごとに、各授業科目の実時間数の合計が備考欄に指定された時間数以上となるように取得すること。

(主務官庁 総務省)

第一級陸上特殊無線技士 (電波法)

第二級海上特殊無線技士 (//)

電気電子工学コースの卒業生で在学中に次の科目を修得した者は、免許の申請ができます。

▼取得すべき授業科目等

- ・無線工学
- ・アナログ通信
- ・デジタル通信
- ・電磁波工学
- ・電気電子工学実験Ⅲ
- ・電気電子計測
- ・電気電子工学実験Ⅰ
- ・電波及び通信法規

(主務官庁 総務省)

電気主任技術者 (電気事業法)

電気電子工学コースの卒業生で在学中に必修科目全てを含む次の関係科目を修得し、卒業後5万ボルト以上の電気工作物の工事、維持又は運用の経験が5年以上の場合は、第一種電気主任技術者、1万ボルト以上の電気工作物の工事、維持又は運用の経験が3年以上の場合は、第二種電気主任技術者免状取得の資格が得られます。

- 1 主要スケジュール
- 2 愛大生コンピテンシー
- 3 教育学部と教育方針
- 4 大学の基本知識
- 5 単位制度
- 6 履修登録単位数の上限
- 7 履修コースの決定
- 8 教育目標・修業課程表履修方法科目ナンバリング
- 9 履修登録手続き等
- 10 他教育コース・他学部授業科目履修
- 11 単位互換科目・他大学科目
- 12 受講上の注意事項
- 13 試験・成績
- 14 卒業見込・卒業研究履修要件
- 15 卒業認定・早期卒業
- 16 転学部
- 17 学びのサポート
- 18 教育職員免許状
- 19 その他の資格について
- 20 学内諸規程

▼取得すべき授業科目等

I．資格試験免除のための必要な単位数

①	電気工学又は電子工学等の基礎	17 単位以上
②	発電、変電、送電、配電及び電気材料	7 単位以上
③	電気機器、応用、自動制御、情報伝送	10 単位以上
④	法規	1 単位
⑤	電気実験、電気実習	6 単位以上
⑥	電気電子機器設計、製図	2 単位以上
	合 計	43 単位以上

注) ②と④は合算した単位数が8単位以上を満足すればよいものとする。

II．各区分に対応する授業科目

①電気工学又は電子工学等の基礎 (17 単位以上)

必修	授業科目	単位
◎	基礎電磁気学	2
◎	電気磁気学 I	2
◎	電気磁気学 II	2
◎	電気回路 I	2
◎	電気回路 II	2
◎	過渡現象	2
◎	電気電子計測	2
	半導体工学	2
	電子デバイス	2
	電子物性	2
	アナログ電子回路	2
	デジタル電子回路	2

②発電、変電、送電、配電及び電気材料 (6 単位以上)

必修	授業科目	単位
◎	発変電工学	2
◎	送配電工学	2
	放電物理	1
	プラズマエレクトロニクス	1
	高電圧工学	2
	電気電子材料	2

③電気機器、応用、自動制御、情報伝送 (10 単位以上)

必修	授業科目	単位
◎	電気機器 I	2
◎	電気機器 II	2
◎	制御工学	2
◎	パワーエレクトロニクス	2
	無線工学	1
	情報理論 (電気)	2
	アナログ通信	2
	デジタル通信	2
	通信工学概論	2
	くらしの中の電気	2

④法規（1単位以上）

必修	授業科目	単位
○	電気法規及び施設管理	2

⑤電気実験、電気実習（6単位以上）

必修	授業科目	単位
○	電気電子工学実験Ⅰ	2
○	電気電子工学実験Ⅲ	2
	電気電子工学実験Ⅱ	2
	電気電子工学演習Ⅰ	1
	電気電子工学演習Ⅱ	1

⑥電気電子機器設計、製図（2単位以上）

必修	授業科目	単位
	電気機器設計製図	2

（主務官庁 経済産業省）

電気工事士（電気工手法）

電気電子工学コースの卒業生で在学中に次の関係科目を修得した者は、第二種電気工事士の筆記試験が免除されます。

▼取得すべき授業科目

- ・電気理論 — — 電気回路Ⅰ、電気回路Ⅱ、電気磁気学Ⅰ、電気磁気学Ⅱ、過渡現象
- ・電気計測 — — 電気電子計測
- ・電気機器 — — 電気機器Ⅰ、電気機器Ⅱ
- ・電気材料 — — 電気電子材料
- ・送配電 — — 送配電工学
- ・製図（配電図を含むものに限る。） — — 電気機器設計製図
- ・電気法規 — — 電気法規及び施設管理

（主務官庁 経済産業省）

危険物取扱者（消防法）

材料デザイン工学コースの卒業生、化学・生命科学コースの卒業生又は化学に関する授業科目を15単位以上修得した者は、甲種危険物取扱者試験を受験できます。

（主務官庁 各都道府県）

1 主要スケジュール
2 愛大生コンプレクシー
3 学部と教育方針
4 大学の基本知識
5 単位制度
6 履修登録の上限
7 履修コースの決定
8 教育目標・修業課程表
9 履修登録の手続き等
10 他学部授業科目履修
11 単位互換科目
12 受講上の注意事項
13 試験成績
14 卒業見込・卒業要件
15 卒業認定・早期卒業
16 転学部
17 学びのサポート
18 教育職員免許状
19 その他の資格
20 学内諸規程

測量士（測量法）

社会基盤工学コース及び建築・社会デザインコースの卒業生で在学中に測量学、測量学実習、および関連する科目を修得し、卒業後1年以上測量に関する実務の経験を有する者は、願い出により測量士の資格を受けることができます。

社会基盤工学コース及び建築・社会デザインコースの卒業生で在学中に測量学、測量学実習、および関連する科目を修得した者は、願い出により測量士補の資格を受けることができます。

【注意】

令和8年度からのカリキュラム変更に伴い、測量士の資格については、現在、国土地理院に変更申請を行っています。申請結果並びに資格取得のために修得が必要となる具体的な授業科目名及び単位数については、令和8年4月以降に修学支援システム等でお知らせする予定です。発表後に工学部事務課学務チーム窓口にて詳細な資料を受け取ってください。

土木施工管理技士、建設機械施工管理技士、建築施工管理技士（建設業法）

【注意】

令和6年度から技術検定制度が改正され、受験資格が見直されています。特定のコースを卒業すれば検定の一部が免除される制度が検討されていますが、詳細は未定です。後日、詳細が決まり次第、掲示等でお知らせします。（資格取得希望者においても、積極的に情報収集をおこなってください。）不明な点は工学部事務課学務チームに問い合わせてください。

（主務官庁 国土交通省）

建築士（建築士法）

社会基盤工学コースで在学中に次の国土交通大臣の指定する建築に関する科目を修めて卒業した者は、二級・木造建築士の受験資格が得られます。

建築・社会デザインコースで在学中に次の国土交通大臣の指定する建築に関する科目を修めて卒業した者は、一級建築士あるいは二級・木造建築士の受験資格が得られます。

また、建築士として登録する場合に必要な実務経験年数が、取得単位数により異なります。

①	分類	一級建築士			二級・木造建築士		
		60単位	50単位	40単位	40単位	30単位	20単位
①	建築設計製図	7単位以上			3単位以上		
②	建築計画	7単位以上			2単位以上		
③	建築環境工学	2単位以上					
④	建築設備	2単位以上					
⑤	構造力学	4単位以上			3単位以上		
⑥	建築一般構造	3単位以上					
⑦	建築材料	2単位以上					
⑧	建築生産	2単位以上			1単位以上		
⑨	建築法規	1単位以上			1単位以上		
⑩	複合・関連科目	適宜			適宜		
	試験に必要な合計単位数	60単位	50単位	40単位	40単位	30単位	20単位
	登録に必要な実務年数	2年	3年	4年	0年	1年	2年

社会基盤工学コースの指定科目に該当する開講科目一覧

分類	授業科目	単位
① 建築設計製図	建築設計製図Ⅰ	3
② 建築計画	建築と社会のデザイン	2
③ 建築環境工学	建築・都市・土木史	2
④ 建築設備	建築計画Ⅰ	2
	建築計画Ⅱ	2
⑤ 構造力学	土質力学Ⅰ及び同演習	3
⑥ 建築一般構造	構造力学Ⅰ及び同演習	3
⑦ 建築材料	土質力学Ⅱ及び同演習	3
	構造力学Ⅱ及び同演習	3
	地盤工学	1
	構造解析学	1
	コンクリート構造工学	1
	コンクリート材料	2
⑧ 建築生産	プロジェクトマネジメント	2
⑨ 建築法規	建築・都市計画法令	1
⑩ 複合・関連科目	工学倫理・知財・キャリアリテラシーⅠ	1
	工学倫理・知財・キャリアリテラシーⅡ	1
	建設分野のデジタル技術	2
	測量学	2
	測量学実習	1
	環境建設工学実験Ⅰ	2
	環境建設工学実験Ⅱ	2
	社会基盤材料工学	1
	デジタルデザイン	2
	土木・建築防災工学	1

1 主要スケジュール
 2 愛大生コンプレクシー
 3 学部のと教育方針
 4 大学の基本知識
 5 単位制度
 6 履修登録の上限
 7 履修コースの決定
 8 教育目標・修業科目ナ
 9 履修登録手続き等
 10 他学部授業科目履修
 11 単位互換科目
 12 受講上の注意事項
 13 試験・成績
 14 卒業見込・卒業要件
 15 卒業認定・早期卒業
 16 転学部
 17 学びのサポート
 18 教育職員免許状
 19 その他の資格について
 20 学内諸規程

建築・社会デザインコースの指定科目に該当する開講科目一覧

分類	授業科目	単位
① 建築設計製図	学部共通PBL (建築設計製図)	3
	建築設計製図Ⅰ	3
	建築設計製図Ⅱ	3
	建築設計製図Ⅲ	3
	建築設計製図Ⅳ	3
② 建築計画	建築と社会のデザイン	2
	建築・都市・土木史	2
	建築計画Ⅰ	2
	建築計画Ⅱ	2
③ 建築環境工学	建築環境工学	2
④ 建築設備	建築設備デザイン	2
⑤ 構造力学	土質力学Ⅰ及び同演習	3
	構造力学Ⅰ及び同演習	3
	土質力学Ⅱ及び同演習	3
	構造力学Ⅱ及び同演習	3
	地盤工学	1
	構造解析学	1
⑥ 建築一般構造	建築構造	2
	建築構法	1
	コンクリート構造工学	1
⑦ 建築材料	コンクリート材料	2
	建築材料	1
⑧ 建築生産	プロジェクトマネジメント	2
⑨ 建築法規	建築・都市計画法令	1
⑩ 複合・関連科目	工学倫理・知財・キャリアリテラシーⅠ	1
	工学倫理・知財・キャリアリテラシーⅡ	1
	建設分野のデジタル技術	2
	測量学	2
	測量学実習	1
	環境建設工学実験Ⅰ	2
	環境建設工学実験Ⅱ	2
	社会基盤材料工学	1
	デジタルデザイン	2
	地域デザイン論	2
	景観デザイン	2
	土木・建築防災工学	1

20 学内諸規程

☑ 愛媛大学工学部規則



☑ 愛媛大学工学部教育課程履修規程



☑ 愛媛大学工学部における履修登録単位の上限に関する内規



☑ 愛媛大学工学部における成績不振者の判定基準及び指導方法についての申合せ



1 主要スケジュール

2 愛媛大学生コンベンション

3 学部のと教育方針と教育の理念

4 大学で学ぶ基本知識

5 単位制度

6 履修登録単位の数の上限

7 履修コースの決定

8 教育目標・教育課程表履修方法科目ナンバリング

9 履修登録手続き等

10 他教育コース・他学部授業科目履修

11 単位互換科目・他大学科目

12 受講上の注意事項

13 試験・成績

14 卒業見込・卒業研究履修要件

15 卒業認定・早期卒業

16 転学部

17 学びのサポート

18 教育職員免許状

19 その他の資格について

20 学内諸規程

この冊子は、令和8年度入学者が卒業するために必要な履修に関する案内です。

卒業まで大切に保管してください。

学生証番号

氏名